

The background is decorated with numerous watercolor-style hearts in various colors (pink, purple, orange, blue, green, yellow) and small colored dots scattered across the white space.

2024年度
第7回 清流環境作文コンクール
受賞作品集



けん
と
健人くん



さくらちゃん

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

後援／環境省 富山県教育委員会 富山県小学校長会 富山県小学校教育研究会 富山県PTA連合会



受賞作品集

神通川清流環境賞

第7回清流環境作文コンクール部門受賞作品集発刊にあたり

一般財団法人 神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会

代表理事 江 添 良 作

昨年は元日の能登半島地震に始まり豪雨や猛暑など、自然災害の恐ろしさを痛感させられる一年でした。また、お盆にはイタイイタイ病の認定患者が亡くなり生存者ゼロとなったことから風化が懸念されています。しかし昨年の神通川流域での住民健診の結果では、新規にカドミウムによる腎臓障害が23名も見つかっています。

さて、当協議会はイタイイタイ病の風化を防ぎ、先人の苦難の闘いによって甦った神通川の清流と豊かな大地を守るため、公害防止協定に基づく水質などの監視活動や復元田の整備事業を今日もなお継続して行っています。

平成29年度に「神通川清流環境基金」を創設し、富山県内の小学生を対象として「清流環境作文コンクール」を平成30年から実施し、今年で7年目となりました。この作文コンクールが未来を担う子どもたちに郷土の豊かな自然環境と命の大切さなど、感性豊かな心をはぐくむ一助となれば幸いです。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、学校行事が活発に行われ大変お忙しい中であって、42校から1091点の応募があり、10名の審査員（氏名は別記）により慎重な審査を重ね、入選作品45点を作品集におさめ発刊することができました。冊子は県内の全小学校に配布させていただきます。

受賞されました児童の皆様、ご家族の皆様にご改めとおめでとうございます。さらには学級賞・学校賞を受賞されました小学校の先生各位には心よりお礼と感謝を表します。

後援をいただきました環境省、富山県教育委員会、富山県小学校長会、富山県小学校教育研究会、富山県PTA連合会に対してもお礼申し上げます。

次年度も同作文コンクールを実施いたしますので、関係各位のご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

審査講評

第7回清流環境作文コンクール審査委員長

元富山国際大学子ども育成学部教授 仲井文之

第7回清流環境作文コンクール受賞者の皆さん、受賞おめでとうございます。審査員を代表しお祝いたします。今年度は42の小学校から1091点の応募がありその中から皆さんの作品が選ばれました。

さて、この清流作文コンクールには、四つの部門が設けられています。

一つ目は「清流環境歴史賞」です。富山市を流れる神通川は美しい川ですが、かつてはカドミウムに汚染されて住民に重大な健康被害をもたらしました。その歴史を風化させないという決意のもとにこの賞は設けられました。寄せられた作品には、イタイイタイ病資料館を訪れ、展示された資料に手で触れたときの驚きや、語り部の話を聞いて感じた率直な感想が述べられています。

二つ目は「清流環境体験賞」です。暮らしの中の身近な生き物との触れ合いや、県内の海や川、山での体験が記され、自然への気づきがありました。また、ごみ拾いや清掃などのボランティア活動を体験し、自然を守る大切さに触れた作品もありました。今回の特徴として、能登半島地震に触れた作品もありました。

三つ目は「清流環境科学賞」です。私たちを取り巻く環境を知るには、科学的な視点と数値が大切です。今回の作品には、明確な視点で環境を見つめた作品が寄せられ、心強く感じました。

四つ目は「清流環境奨励賞」です。この賞は、学校または学級に所属する全員の作品を寄せられた努力を称えるために設けられた賞です。今回は一つの学校、39の学級に贈られました。

今回の作文審査を通して、環境に関する授業が学校現場で取り組まれていることや、それぞれの家庭で父母、祖父母と交わされる子どもたちとの語らいに気づくことができました。今年一月に、「ニューヨーク・イムズが、2025年に行くべき52の都市として、富山市を30位に選出した」というニュースがありました。その理由の一つが、「市民が市の文化と環境に誇りをもっている」という点でした。私たちは富山の環境のために闘った先人と、受け継いだ市民の不断の努力を忘れてはならないと思います。

皆さんの受賞作品は、「受賞作品集」として、県内の小学校に送付されます。環境教育や作文の学習に活用いただければ幸いです。

終わりにあたり、第7回清流作文コンクールに様々なご配慮をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

作文コンクール受賞者一覧

清流環境体験賞								清流環境歴史賞								賞名									
中学年部門				低学年部門				高学年部門				中学年部門				低学年部門				部門					
佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	佳作	優秀賞	最優秀賞	賞				
氏名																					氏名				
小学校名																					小学校名				
学年																					学年				
題名																					題名				
ページ																					ページ				
塚本サンドラ	菅野 朔史	祖泉 涉吾	中西 澤菜	中西 琉菜	水戸 彩音	松井 郁実	藤澤 惇希	清水 岳	山崎 巨陽	大家あさひ	岩澤 優帆	村田 萌南	小山 咲実	藤井 健輔	昇 千聡	伊藤 詩彩	細江 孝輔	前田 倅汰	室谷 康太	古栃 凜桜	中田 蒼人	富山市立宮野小学校	1年	イタイイタイびょうをしって	10
高岡市立高陵小学校	富山市立光陽小学校	富山市立宮野小学校	富山市立八幡小学校	富山市立八幡小学校	砺波市立砺波北部小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立堀川小学校	高岡市立木津小学校	富山市立新保小学校	高岡市立木津小学校	富山市立新保小学校	富山市立速星小学校	富山市立宮野小学校	高岡市立高陵小学校	射水市立中太閤山小学校	高岡市立高陵小学校	立山町立立山中央小学校	富山市立東部小学校	射水市立大島小学校	富山市立宮野小学校	2年	はじめて知ったイタイイタイびょう	12	
4年	3年	3年	4年	1年	1年	1年	1年	2年	5年	5年	5年	5年	5年	6年	4年	4年	4年	4年	2年	2年	1年	イタイイタイ病をぼくは忘れない	18		
一年間、自然とふれあって	いのちを助けるライフセイビング	きれいな川にすむいき物たち	おじいちゃんのヒマワリ	ゆれたいえ	これから、いきものとなかよくしたい	おじいちゃんのおこめ	じびきあみをしておもったこと	こん虫びょういん	川をきれいにするための努力	イタイイタイ病が及ぼす影響	イタイイタイ病のおそろしさ	イタイイタイ病を忘れないで	人に伝えることが大切	火花から見える戦争とイタイイタイ病	きれいな神通川	イタイイタイ病と今後の課題	イタイイタイ病から学んだこと	イタイイタイ病から学んだこと	ゆう気を出してそうだししよう	はじめて知ったイタイイタイびょう	イタイイタイびょうをしって	富山市立宮野小学校	1年	イタイイタイびょうをしって	10
54	52	50	48	46	44	42	40	38	34	32	30	28	26	24	22	20	18	16	14	12	10	ページ			

清流環境科学賞												清流環境体験賞										
高学年部門					中学年部門					低学年部門					高学年部門			中学年部門				
佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	佳作	優秀賞	優秀賞	最優秀賞	佳作	
仲井 文音	岡崎百々花	仲井 宗介	岩河さくら	大浦 深結	森田このは	宮永 維睦	松田 心菜	丸山 藍	岡本 春裕	志水 仁美	中尾 優月	土屋 琴波	小神 幸平	伊橋 蓮和	五十嵐優翔	鈴木 華乃	姫野 栞央	井下 結羽	山本 麻央	土井 美空	金川 実優	山口 恵生
南砺市立利賀学舎	富山市立新保小学校	南砺市立利賀学舎	富山市立新保小学校	高岡市立野村小学校	富山市立宮野小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立宮野小学校	富山市立立野村小学校	高岡市立野村小学校	高岡市立高陵小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	高岡市立国吉義務教育学校	高岡市立下関小学校	富山市立宮野小学校	富山市立宮野小学校	富山市立堀川小学校	富山市立新保小学校	小矢部市立東部小学校	富山市立速星小学校	富山市立堀川小学校	富山市立宮野小学校
5年	5年	5年	6年	5年	4年	4年	3年	4年	4年	4年	2年	1年	2年	1年	1年	1年	6年	6年	5年	5年	5年	3年
3Rの徹底でごみゼロ作戦	水の成分と地域	地球温暖化を防ぐために	立山植物保護への活動	人と環境のために働く	わたしたちが学んだ食品ロス	海洋生物を助けたい	どうぶつのくらし方	富山の美しい海を守るためには	みんなで学んだ下水道	大切な水のためにできること	水をたいせつにしよう	きれいなほたる	ぼくのザリガニ	ぼくができること	ぼくにヤモリがきたよ	うちにがんばるいのち	海の子き物を助けたい	自然災害ってこんなに怖いんだ	ホタルの光をもう一度	「海と川」いろいろな自然に触れて	水とお友達	遠くまでおさんぽ
102	100	98	96	94	92	90	88	86	84	82	80	78	76	74	72	70	66	64	62	60	58	56

◆応募学校一覧

下新川郡	入善町立黒東小学校	入善町立入善小学校	
中新川郡	上市町立上市中央小学校	立山町立立山中央小学校	
富山市	富山市立萩浦小学校	富山市立八幡小学校	富山市立藤ノ木小学校
	富山市立広田小学校	富山市立水橋中部小学校	富山市立堀川小学校
	富山市立熊野小学校	富山市立新保小学校	富山市立速星小学校
	富山市立鶉坂小学校	富山市立宮野小学校	富山市立神保小学校
	富山市立芝園小学校	富山市立柳町小学校	富山市立東部小学校
	富山市立光陽小学校	富山大学教育学部附属小学校	
射水市	射水市立新湊小学校 射水市立大島小学校	射水市立金山小学校 学校法人片山学園初等科	射水市立中太閤山小学校
高岡市	高岡市立高岡西部小学校	高岡市立木津小学校	高岡市立能町小学校
	高岡市立高陵小学校	高岡市立下関小学校	高岡市立野村小学校
	高岡市立戸出東部小学校	高岡市立戸出西部小学校	高岡市立中田小学校
	高岡市立国吉義務教育学校		
小矢部市	小矢部市立東部小学校	小矢部市立津沢小学校	
砺波市	砺波市立出町小学校	砺波市立砺波北部小学校	砺波市立庄川小学校
南砺市	南砺市立利賀学舎		

◆審査員一覧

仲井 文之	元富山国際大学子ども育成学部教授
水上 義行	元富山国際大学子ども育成学部教授
三原 茂	富山国際大学子ども育成学部教授
岩崎 直哉	富山国際大学子ども育成学部講師
宮城 信	富山大学教育学部准教授
鈴木 敬子	元射水市立作道小学校長
安元 恵子	元高岡市立東五位小学校長
牧野 宇子	元富山市立四方小学校長
城岸 毅	元南砺市立井波中学校長
河田 新子	元射水市立放生津小学校長

◆後援団体一覧

環境省 富山県教育委員会

富山県小学校校長会

富山県小学校教育研究会

富山県PTA連合会



清流環境歷史賞

低学年部門

最優秀賞

イタイイタイびょうをしって

富山市立宮野小学校 一年

中田 なかだ
蒼人 あおと

ぼくのいえのすぐそばには、じんづうがわというお
おきなかわがながれています。

はれたひは、みずがきらきらひかっつとともきれいで、
たくさんひとがさかなつりをしています。「あ
ゆがたくさんつれる、めぐみのかわだよ。」と、ちよ

うないのおじさんがにこにこしながらいってしま
た。

でも、このきれいで、きもちよさそうなかわが、む
かしは、「カドミウム」というからだにわるいもので、
よごれてしまったそうです。そのよごれたみずをのん
だり、かわのさかなをたべたり、たんぼやはたけにつ
かったりしていました。そこでそだったおこめや、や
さいをたべたくさんのひとが、「イタイイタイびよ
う」というびょうきになってしまったことを、おかあ
さんにおしえてもらいました。

イタイイタイびょうは、からだじゅうがいたくなつ
て、すぐにほねがおれてしまうびょうきで、たくさん
のひとがまいにちないていたそうです。ぼくは、いた
いのが、がまんできないので、きつとくるしくてつら
いびょうきだったとおもいました。

ぼくはおこめがだいすきです。あんしんしておいし

いおこめをたべることができているのは、たくさんの
ひとがながいじかんをかけて、がんばって、じんづう
がわや、よごれたつちを、きれいにしてくれたおかげ
だとしりました。

さかながげんきにくらせるように、おいしいいおこめ
ややさいができるように、ぼくもかわのみずをたいせ
つにして、きれいなかわをまもれるように、できるこ
とをがんばりたいとおもいます。



低学年部門

優秀賞

はじめて知ったイタイイタイ びょう

射水市立大島小学校 二年

古^{ふる}栃^{とち} 凜^り桜^{おな}

わたしは、「イタイイタイびょう」を聞いたことがありませんでした。そこで、おかあさんにどうい
びょうきか教えてもらいました。

わたしは、イタイイタイびょうという名前がかわっ

ているなと思いました。なぜかという、「イタイイ
タイ」とついているからです。わたしは、しばらく考
えてみました。

それから、イタイイタイびょうをしらべてみると、
「いたいたい。」と言ってしまうほど、このびょうき
はつらいものだと知りました。

このまえ、ニュースを見ていると、イタイイタイびよ
うのことを話していました。わたしはずっとむかしの
ことだと思っていたのですが、聞いてみると、イタイ
イタイびょうにんていされているひとは、二〇一人
と言っていました。ニュースでやっていて、わたしは、
とてもゆう名なびょうきなんだなと思いました。

どんどんしらべていくと、イタイイタイびょうの川
を、なん年かけてなおしていったのかしらべたくなり
ました。

イタイイタイびょうでよごれた川は、四〇年もかけ

て、今もけんさをしているとわかったとき、わたしはそんなにじかんがかかったんだな、ほんとうにこわいんだなと思いました。

さいきん、とやまのじんづう川を車でわたりました。とても大きな川でした。たいようの光があたってキラキラ光っているのがとてもきれいでした。わたしの家の近くの川も、今のじんづう川とおなじくらいきれいです。

わたしは川をたいせつにしようと思いました。そして家の近くの川も、今のじんづう川もずっときれいですようにと思いました。



低学年部門

佳作

ゆづ気を出してそらだんじょう

富山市立東部小学校 二年

室谷 むろたに 康太 こうた

ぼくは夏になると、じょうがんじ川でよくあそぶ。おとうとと水ぎになって、あみでハゼやドジョウ、おたまじゃくしをつかまえる。川の中をじいっと見て、おたまじゃくしがあつまっているばしょをさがす。おたまじゃくしに気づかれないように、あみを水中に

入れて、力をこめてす早くあみを上げる。つかまえたとき、ものすごくうれしい。川であそぶのが、とてもたのしい。

でも、むかし、と山けんの川でこわいことがおこっていたことを知った。ぼくは、イタイイタイびょうのえほん『みよさんのたたかいとねがい』を読んでおどろいた。

どうして三みつい金ぞくこうぎょうは、じんづう川にどくをながしたんだらう。小まつみよさんは、ぼくと同じように川でたのしくあそんでいたのに、イタイイタイびょうになってしまった。

ぼくは、川にどくをすてた人たちの気もちを考えた。カドミウムはいらぬから、川にすてたのかなと思った。でも、どくをすてたひとたちにも、二つの気もちがあったかもしれない。

一つ目は、「いらぬから川にすてちゃえ。」と、こ

れからを考えなかった人たち。

二つ目は、「カドミウムがさかなや人をころすかもしれない。」と、先のことをそうぞうしてわかっていた人たち。気づいていたけど、どくをながしつづけた。

もしも、どくをながしていた人が未来を考えて、じんづう川であそんでいたみよさんやの家の人たちに「カドミウムをながしていいですか。」と聞いていたらよかった。きよかをもらって、すてていたら、みよさんはイタイイタイびようにならなかったかもしれない。みよさんやしゅんいちさんのおかあさんも、しななかつたかもしれない。

ぼくは、だめなことをしたくなったら、ゆう気を出してそうだんするのが大切だと思った。



* 中学年部門 *

最優秀賞

イタイイタイ病から学んだこと

立山町立立山中央小学校 四年

前田^{まえだ} 倅汰^{こうた}

イタイイタイ病について調べて、ぼくはとても心が痛みました。この病気は、昔、富山で起きた悲しい出来事で、神通川の周りですごくたくさんの人が苦しんでいました。

イタイイタイ病にかかった人たちは、骨が痛み、骨

折をくり返すようになり、日常生活がどんどん困難になっていきました。それでも、その原因が一体何なのか、誰も分からなかったのです。何も分からないまま、毎日毎日辛い痛みに苦しめられました。

この病気の原因は、川や田んぼの水が、カドミウムという有害な金属で汚れてしまったことでした。カドミウムは、岐阜県の神岡鉱山から流れ出たもので、それが長い年月をかけて、人々の体の中に入っていました。当時はまだ水道がなくて、のどがかわいたら、神通川の水を飲み、お母さんたちは、川の水を使ってお米をたき、ご飯をつくっていました。毎日食べていたご飯や飲み水が、実は少しずつ体を壊していたのです。病気に苦しんだ人たちが、そのことを知ったおどろきや悲しみを想像すると、胸がしめつけられるような気持ちになりました。

イタイイタイ病は、ぼくたちに大切な学びをのこし

ました。当時の人々は、鉾山が出す汚れた水が、自ぜんにどのような影響を与えるのか、よく分かっていたませんでした。鉾山がたくさんの人が働く重要な場所である一方で、人々を苦しめるものであったことには、なかなか気づくことができなかつたのです。

イタイイタイ病について調べておどろいたのは、病気の原因が、本当はおいしくてきれいな富山の水の中にあつたということです。ぼくたちがいつも飲んでいる水や食べ物はとても大切で、環境がはかいされて汚れてしまうと、ぼくたちの健こうに大きなえいきょうがあるということを実感しました。

ぼくの知っている今の神通川は、魚釣りを楽しむ人々がいる、子どもの笑い声が聞こえる、とてもきれいな川です。昔、悲しい出来事があつたとは思えないほどです。自然は、みんなで良くしようと思えば良くなるし、そうしなければどれだけでもはかいさ

れ、汚れていくのだと感じました。

ぼくも環境を守るために、自分ができるところから始めたいです。小さな行動でも、未来の人たちの命や生活をすくうことにつながるはずです。



* 中学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病をぼくは忘れない

高岡市立高陵小学校 四年

細江 孝輔
ほそえ こうすけ

「一級河川 神通川」

神通川の近くにあるかん板を見て、神通川は大きいし、太陽の光で水面がきらきらとかがやいて、きれいだから一級なのだと思った。しかし、調べてみると、一級河川とは特に重要な水系として、国土交通大臣が

指定した河川であることが分かった。そのように重要な神通川の流域で起こった、イタイイタイ病について知るために、ぼくはお母さんとイタイイタイ病資料館に行くことにした。

イタイイタイ病資料館を見学して、おどろいたことが二つある。

一つ目は、じんぞうのもけいである。健康な人のじんぞうは、形が大きくてしっかりしていた。しかし、イタイイタイ病になってしまった人のじんぞうは、小さくて変わったもようがあった。あのように小さなじんぞうだから、強いほねを作ることができず、身長が三〇センチメートルも小さくなってしまふのだと思った。カドミウムはおそろしいと感じた。

二つ目は、ほねのもけいである。健康な人のほねはずっしりと重く、中身がしっかりつまっていることがよく分かった。けれども、イタイイタイ病の人のほね

はとても軽く、スカスカであることが、ほねのもけいを持たただけでもよく分かった。

イタイイタイ病のおそろしさを、じんぞうとほねのもけいから感じたが、一番おそろしく悲しいと思ったのは、イタイイタイ病になってしまった人たちが、体中のいたみに苦しみながら死んでいったことだ。

一か月前に、ぼくの祖母が親せきの方のお通夜に行ったとき、その場にいた人たちみんなが、

「九三さい、大往生だね。」

と言ったそうだ。でも、イタイイタイ病になった人は、さいごにどんなことを思いながら死をむかえたのだろう。そして、その家族の方々は、どのような気持ちで苦しむ家族を見守っていたのだろう。

資料館の見学で、神通川の水と土地は、おせんされる前と同じくらいのものに、よみがえったと分かった。しかし、川の水と土地はよみがえっても、亡く

なった方はよみがえらない。今も「要観察者」とされている方がいる。ぼくは、神通川を見るたびに、資料館で学び考えたことを思い出すことにする。そして、富山県に住む一員として、そのことを決して忘れない。



* 中学年部門 *

佳作

イタイタイ病と今後の課題

射水市立中太閤山小学校 四年

伊藤 詩彩

イタイタイ病とはどんな病気かは、学校の集会で学んで、少し知っていましたが、もっとくわしく知りた
い、みんなにも知ってもらいたいと思い、この作文を
書こうと思いました。イタイイタイ病とは、どんな病
気なのでしょうか。

日本で産業活動が盛んになった、一九五〇年代から一九七〇年代にかけて、四大公害病が大きな問題となりました。イタイイタイ病は、この四大公害病のうちの一つです。イタイイタイ病は、岐阜県から富山県を流れる神通川の下流域で発生しました。上流域にある神岡鉱山が、カドミウムという重金属を川に流していたため発生しました。カドミウムに汚染された水を使って育てた米や、水自体を口にすることで、じんどうに障害が起き、体じゅうが痛くなる病気です。病気が悪化すると、くしゃみをするだけで、骨が折れてしまふそうです。

かん者の身近な人の気持ちを考えると、悲しくなります。もちろん、かん者本人が一番苦しいと思います。けれども、そんなかん者をただ見ているだけ、何かしてあげたいけれど、ちりょう法もなく、家族もただかん者のうめき声を聞いているだけしかできない本

当に苦しい思いをしていたと想ぞうします。

カドミウムに汚染された水を使って稲作を行い、料理に使ったり、水を飲んだりしていた住民は、イタイイタイ病になってしまいました。私たちは水道のレバーを上げるだけで、水がかんたんに使えます。昔の人も、ふだん使っていた水が汚染されているなんて、考えもしなかったでしょう。安心安全な水がいきわたってこそ、みんなが平和で、おだやかな生活が守られるんだなと思いました。

一九六〇年代、神岡鉦山をけいえいしていた、三井金属鉱業を相手に、ひがい住民がさいばんを起こし、勝ちました。ひがい者へのばいしょう、公害防止、汚染地のふく元を約束させました。住民という大きな相手だったからこそ、三つも約束させることができたのだと思います。三つ目の汚染地のふく元では、一、六〇〇ヘクターをこえる地域で、さいばいされる稲

が健康にえいきょうしないように、土じょうのふく元工事が行われました。二〇二四年三月までに、その工事を終了しました。ここまでの道のりは、とても長いものだったと思います。

これからのイタイイタイ病についての課題は、どのようにイタイイタイ病を伝えていくかということと、住民の健康かんりです。イタイイタイ病が、かこのものと忘れられないようにしていかねばならないと思います。イタイイタイ病について、私なりに知ったことと、感じたことを伝えていくことは、わたしにもできることだと思いました。伝えることこそ、二度とこのような悲しい出来事を生まないことにつながると思います。

* 中学年部門 *

佳作

きれいな神通川

高岡市立高陵小学校 四年

昇のぼり 千聡ちさと

わたしは、夏休みの宿題の作文のテーマ「イタイイタイ病について知ったこと調べたこと」を見て、「イタイイタイ病」って何だろう、すごくいたくて苦しかったのかなと、とても気になりました。お母さんに言ったら、「それならイタイイタイ病資料館に行くと、い

ろいろ分かるかもよ。」

と、言われたので、行ってみることにしました。

今から一三〇年ほど前の明治時代の終わりごろから、神通川が白くにごったり、イネの育ちが悪くなったりするなど、ふしぎなことが起こりました。大正時代になると、神通川の近くで全身がはげしくいたむ原因の分からない病気が、人々を苦しめました。その病気は、ほんの少しつまずいたり、転んだりしただけでも、こっせつしてしまうというものでした。息を吸うだけでも、針千本か二千本をさすようにいたかったそうです。苦しんでいる写真を見て、とてもつらそうで心がいたかったです。この病気になった人は、みんな「いたい、いたい」と泣きさけぶので、「イタイイタイ病」と名付けられました。そして、ようやく神通川上流にある神岡こう山から流れ出した「カドミウム」が、原因だということが分かりました。つまり、

体に悪いカドミウムというものが神通川にまぎって
いて、その川の水で育ったお米や、その川の水のみつ
づけた、たくさんの方がイタイイタイ病にかかった
のです。

その後、昭和三〇年代後半から、水道が整備されま
した。そして、カドミウムでよごれてしまった広大な
農地を、もう一度米づくりができるような、きれいな
土地にもどす工事が始まりました。それは、約三〇
年以上もかかって、平成二四年までにすべて終わり、
安全でゆたかな大地をとりもどしたのです。

イタイイタイ病資料館からの帰り道、やっぱり心が
いたいままでした。お母さんが「ここが神通川だよ。」
と教えてくれました。その川は大きくて、とてもきれ
いで宝石のようにキラキラしていました。イタイイタ
イ病がおこったなんて信じられませんでした。

イタイイタイ病がおきたからって、神通川を悪く思

いたくないです。私は、こんなきれいな川や自然を守
るために、何ができるか考えてみました。わたしにで
きることは、イタイイタイ病やそのときに生きた人た
ちのくらしや苦しみ、よごれた水のこわさや、イタイ
イタイ病のこわさを自分から学ぶことだと思いまし
た。そうすれば、わたしよりも年下の世代にも、伝え
ていくことができるのではないかなと思いました。



* 高学年部門 *

最優秀賞

花火から見える 戦争とイタイイタイ病

富山市立宮野小学校 六年

藤井 健輔

「この花火は、富山大空しゅうで亡くなられた方の、たましいをしずめるために、平和を願って始まったものなんだよ。」

神通川花火大会の花火を、家族で見に行ったとき

に、おばあちゃんからこう聞かされた。今までは、夏休みの楽しいイベントの一つとしか感じていなかった花火大会だったが、その話を聞いた今年は、今までとはちがう見え方があった。

花火を見ながら思い出したのは、六年生になってぼくが授業で学んだイタイイタイ病についてだった。イタイイタイ病は、カドミウムが川に流され、お染せんされているとは知らずに、その川の水を飲んだり、その水で育った米や野菜を食べたりすることで、じん臓障害が起こり、ほんの少し動いただけで、簡単に骨が折れてしまう病気だ。

ぼくは、なぜカドミウムが出たのか知りたくなり、さらに調べたところ、日露戦争にちろ、日中戦争、太平洋戦争が起きたことで、武器や銃じゆうの増産が必要となり、原料となる、なまりやあえんを加工する際に、カドミウムが出たことを知った。

イタイイタイ病の引き金は、間ちがいなく戦争である。戦争がなければ、多くの武器も必要ではなく、なまりやあえんを加工することも、カドミウムが神通川に流れることもなかった。イタイイタイ病は、戦争が起こしたひさんな歴史の一つだと思う。

イタイイタイ病は、平成二五年、被害者団体と原因企業が、問題が「全面的に解決した」とする合意書に調印した。しかし、問題が、「全面的に解決する」ということはあり得るのだろうか、ぼくは疑問に思う。

今年、一緒に花火を見た大好きな家族の誰かが、もし公害で亡くなったり、苦しんだりしていたら、たとえ企業が罪を認め、賠償がされたとして、全面的に解決したと思えるのだろうか。家族が苦しんで亡くなっていた光景は、一生記憶きおくから消えることはないのではないだろうか。完全解決したとなっているが、もし

かしたら、いまだに苦しんでいる遺族は多いかもしれない。

空に打ち上がる大きくきれいな花火を見ながら、富山大空しゅうで亡くなった人たちと共に、イタイイタイ病で苦しんで亡くなっていった人たちにも、心の中で手を合わせた。

「戦争の起きない世界を作りたい。」

イタイイタイ病を学んだことによって、さらに、その思いが強くなった。これから先も、神通川の花火を見るたびに、そのことを思い出すと思うし、この気持ちを大人になっても忘れないでいたい。

* 高学年部門 *

優秀賞

人に伝えることが大切

富山市立速星小学校 五年

小山 こやま
咲実 えみ

「新潟に新潟水俣病という病気があったらしいよ。」

私は四年生のときに、友達から聞きました。そのとき、新潟水俣病がどんな病気なのかなと思い、調べてみることにしました。新潟水俣病は、コップをもつときに手が震えてしまい、落としてしまったり、歩きに

くくなったりする病気です。しかも、ひどい場合は、意識がなくなったり、死んでしまったりする病気だと分かりました。その原因は、水銀です。さらに調べていくと、日本には、四大公害病があることが分かりました。そして、富山県には、イタイイタイ病があることを知りました。今度は、イタイイタイ病について調べてみることにしました。

イタイイタイ病は、はじめに腰や肩から痛みが始まり、さらに症状が重くなると、骨折を繰り返すようになります。すこし触っただけで骨が折れてしまう病気です。さらに、一人で動けなくなり、食事もとることができなくなります。そして、体が弱くなり、死んでしまうこともある病気だと分かりました。

もっとイタイイタイ病について知りたくなり、イタイイタイ病資料館に行きました。

そこで、病気の原因がカドミウムであることが分か

りました。また、そのカドミウムを流していたのが、神岡鉱業であると分かりました。そのとき私は、「カドミウムが流れていることが分かっているのに、なぜ止めることができなかったのかな。」と、思いました。

調べてみると、イタイイタイ病が戦争と関係することに気づきました。カドミウムは、亜鉛をつくるときに出るものです。亜鉛は、戦争で使う武器等を作るために使う物質です。亜鉛を作らないと、日本が負けてしまうということです。作らなければいけないという事情があったことは分かりましたが、工夫してきれいな水を流せば、このようなことが起きなかったと思います。

さらに、調べてみると、カドミウムを流した企業と住民が、裁判で争ったことも分かりました。裁判が行われたのは、一九六八年から一九七二年の約四年間です。準備の期間を考えると、もっと長くなります。

私は、その時間をとても長く感じました。

さらに、わたしは、「神岡鉱業は、これだけ苦しんでいる人がいるし、きっとその人の気持ち分かるはずなのに、なぜ裁判のときにすぐに認めなかったのかな。」と、思いました。

結果、住民が裁判で勝利し、「患者に対する損害賠償金」「公害防止」「汚染された土地の復元」という三つの約束を結び、今では、安心して暮らせるようになっていきます。現在も、みなさんが、神岡鉱業の工場等に行き調査をしておられます。

私は、友達の言葉をきっかけに、水俣病やイタイイタイ病について知ることができました。私にできることは、友達みたいに近くの人に伝えて、考えるきっかけを作ることだと思います。一人でも多くの人に伝えていきたいです。さらに、今ある環境を大切にしていきたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

イタイイタイ病を忘れないで

富山市立新保小学校 五年

村田 むらた
萌南 もな

私のひいおばあちゃんは、イタイイタイ病認定患者でした。

お父さんのおばあちゃんにあたります。お父さんは、おばあちゃんが亡くなる時、体はやせ細り、咳ばかりしてつらそうで、寝たきりの状態が長く続き、

元気な姿を見ることはほとんどなかったと言っていました。

最期まで苦しそうにしている、骨は、こなごなになっていったそうです。それなのに私は、イタイイタイ病の症状について、全く理解していませんでした。だから私は、イタイイタイ病についてもっと知りたいと思ひ、インターネットや本で調べてみることにしました。調べてみると、イタイイタイ病について詳しくまとめられている記事がでてきました。

「明治時代から発生し、はい出されたカドミウムが神通川の水や流域を汚染して、汚染された農地に実った米などを通じて、体内に入ること引き起こされました。被害者はもちろん、家族や地元の住民たちもつらく苦しい日々が長い間続いた。」など読んでいるだけで、心が痛くなるような話ばかりでした。そんな話を読んだ私は、「これだけ大切にされてきた川や水の

自然を、人間の手でうばわれてしまうのが悲しい。」と、初めて感じました。

イタイイタイ病の症状についてもっと調べてみると、ずっと意識があるが骨がもろく、簡単に折れてしまいます。「いたい、いたい。」と苦しみ、食事も取れず、一人では動けなくなって寝込んでしまいます。本当に、とても恐ろしい病気だと知りました。ひいおばあちゃんの話聞くことがなかったのは、他の家族も話すのが辛かったからではないかと思いました。

苦しそうに「いたい、いたい。」と、言っている姿を想像するだけでも、胸が苦しくなってしまう。

この間の夏休み、富山県のニュースで、最後のイタイイタイ病認定患者が亡くなったことを知りました。九三歳の女性でした。普通に飲んでいた水や、普通に食べていたお米が、こんなに体に悪いなんて思いもしなかったはず。普通に生きていたかっと思いま

す。

しかし、イタイイタイ病の問題は、認定患者がすべて亡くなくても終わらないということ、改めて感じました。これだけ辛い思いをして、普通の生活ができなかったひいおばあちゃんや、その他の患者の皆さんのことをこれからも忘れてはいけなと思いました。

だからこそ、悲しい出来事を二度と起こさないように私たちが、安心して暮らしていけるような、富山県であるようにしたいと感じました。安心して飲める水や、安心して食べることができるお米があることに感謝をして、これからは過ごそうと思いました。

* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病のおそろしさ

高岡市立木津小学校 五年

岩澤 いわさわ 優帆 ゆうほ

私は、学校の校外学習で、イタイイタイ病資料館へ行きました。

私を知っていたことは、病気の名前と、富山県の神通川で発生したこと、骨が弱くなり折れてしまうことです。

イタイイタイ病資料館に行って一番感じたことは、「イタイイタイ病はすごくおそろしい。」ということだと思います。腎臓が悪くなったり、骨がボキボキと折れたり、筋肉が細くなったりして、体がボロボロになってしまいます。イタイイタイ病資料館には、通常の骨とイタイイタイ病の人の骨がありました。

持ち上げてみると、イタイイタイ病の人の骨はとても軽くて、中身が空のような気がして、通常の人の約三分の一くらいの重さに感じました。イタイイタイ病の患者さんは、二〇〇人中一九六人が女性で、四人が男性です。身長が三〇センチメートルもちぢんだ人や、骨が七〇本以上折れた人もいるそうです。意識は正常なまま、「いたい、いたい。」と苦しみ、食事もとれません。

二度と同じことを引き起こさないために、神通川流域の住民たちは、鉱山や工場から汚染された水が流れ

でていないか調査し、現在は安全な流れを取りもどしています。

このイタイイタイ病の原因を見つけ出したのは、萩野病院の四代目の萩野昇先生です。萩野先生は、イタイイタイ病で苦しむ患者を助けるために、十年間も研究を続けた結果、原因がカドミウムであることをつきとめました。そのカドミウムを川に流し、イタイイタイ病を引き起こした会社に、補償をしてもらおうと、住民たちは、裁判を起こしました。

裁判の結果、一九七一年（昭和四六年）六月三〇日に公害裁判として、初めて被害住民が勝利しました。その後の控訴審も、被害住民が全面勝利しました。この裁判には住民五〇六人が参加しました。弁護団は、当初、全国から集まった二〇人の弁護士で結成され、その後、三〇〇人を超えるまでにふえました。

裁判が終わった次の日、被害者を助けていくこと

と、農地の復元のために、三つの約束を交わしました。それは、「患者に対する損害賠償」、「汚染土壌の復元」、「公害防止」です。会社側は、すべて約束し、真剣に取り組みました。

私は、とてもおそろしいイタイイタイ病の原因が判明し、裁判を戦って、イタイイタイ病の原因をつくった会社に三つの約束をさせたのは、当時の人たちの最後まであきらめない気持ちがあったからだと思っています。今回のイタイイタイ病資料館へ行って勉強したことで、この病気のおそろしさを改めて感じました。

今、水道からきれいな水が出てくるのは、イタイイタイ病のような公害をおこさないように、たくさんの人たちが努力しているおかげだと感じました。私も、水や電気、物を大切に使うていきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

イタイイタイ病が及ぼす影響

富山市立新保小学校 五年

大家^{おおや} あさひ

夏休みの宿題で、清流環境作文コンクールの宿題が出ました。そのため、イタイイタイ病について調べるために、イタイイタイ病資料館に行きました。

イタイイタイ病資料館に行ってみて、まず驚いたのは、ほんの少しつまずいたりするだけで、骨折してし

まうということでした。さらに、診察をしようとして聴診器を当てて、叩いただけで骨が折れてしまうのです。

このように、なぜ、イタイイタイ病にかかったら骨がもろくなってしまふのかを考えました。そして、イタイイタイ病の患者さんに見られる骨の写真を見ました。普通の人の骨と比べて、骨の中身がスカスカだったのです。そのため、骨が変形してしまったり、折れてしまったりすることがわかりました。

それは、鉍毒が、神岡鉍山から神通川に流れていることが原因だったのです。なぜ、川に鉍毒が流されると、イタイイタイ病が発症するのかを調べてみました。

昔は用水の水を飲んだり、農業に使ったりしていたのです。したがって、鉍毒が入った水を飲んでしまつて、イタイイタイ病が発症してしまうということでした。毎日、普通にしていることで病気にかかってしま

うということ、とても怖いことだと思いました。

次に、イタイイタイ病がもう二度と起きないように、どのような対策をしたのが気になりました。

イタイイタイ病資料館に置いてあった、「子どもワークシート」を見ると、「カドミウムでよごれてしまった一六八六・二haもの広大な地域を、もう一度、米づくりができるような、きれいな土地にもどす仕事に取り組みました。」と書いてありました。そして、「子どもワークシート」をもう一回見てみると、仕事は二つの方法を、土地に合わせて使ったということがわかりました。

一つ目のやり方は、「カドミウムでよごれた土地の表面をけずり取り、そのよごれた土は、きれいな土をほり出した後のみぞに埋め込み、耕盤土という小石のまじった土でおおい、その上にきれいな土を乗せる方法」(埋込客土工法)で、二つ目は、「よごれた土の上

にじかに耕盤土を乗せてよごれた土をおおい、その上にきれいな土を乗せる方法」(上乘せ客土工法)というやり方と書いてありました。二つものやり方があるのだと驚きました。

イタイイタイ病にかかった人は三〇人くらいと予想していましたが、調べると、なんと二〇一人もいません。また、認定されるには、四つの条件があるということもわかりました。これを知って、イタイイタイ病らしくても、認定されない人がいるのかなと思いました。

これらのことを知って、私はもうこのようなことが起きないように、これから環境について、少しでも考えて生活していきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

川をきれいにするための努力

高岡市立木津小学校 五年

山崎 やまざき
巨陽 あさひ

ぼくが、イタイイタイ病のことを知ったきっかけは、校外学習で、富山県立イタイイタイ病資料館に行ったことでした。

イタイイタイ病は、あえんやなまりなどをさいくつする工場から出たカドミウムが、川に流れ出て、水が

おせんされたことが原因で起こった病気です。かかった人の多くは女せいだったそうです。イタイイタイ病が流行った初めのころは、まだ、科学が発達していなかったたので、公害という考えがなく、原因不明の病気と言われていました。萩野医師や、国の研究により、原因が、神岡こう山からでるカドミウムだということが、つき止められました。

そして、ひ害住民が、原因を作った三井金属こう業と、ひ害者を助けていく「かん者に対するそん害ばいしょう」と、おせんされた農地の復元のための「おせん土じょうの復元」、「公害防止」を取り決めました。三井金属こう業は、二百億円以上をかけて、公害防止に必死に取り組んできたため、元のきれいな神通川にもどりました。

ぼくは、ひ害住民や、原因を作った会社の努力のおかげで、きれいな神通川にもどったのだと思います

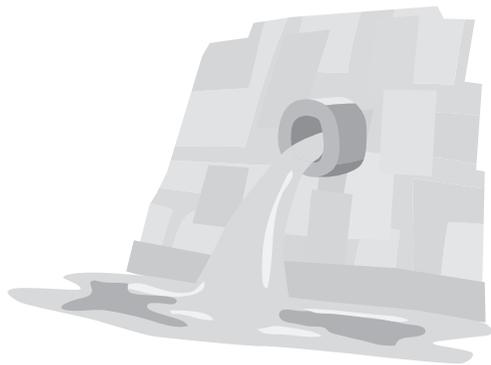
た。

ぼくの家の近くに千保川という川があり、川ぞいは、桜なみ木になっています。そのため、春になると、満開の桜を楽しむ人がたくさん来ていて、川沿いがとてもにぎやかになります。ぼくの家族も、毎年お花見に行っていて、思い出になっています。千保川は、地いきの人にとって、大切な場所になっています。

また、千保川には、「千保川をきれいにする会」があります。この会は、一九九九年に校下の児童が、市内の千保川の汚れを調べ、学校の新聞に書いたことがきっかけで、地元町内会が本格的に取り組むことになり、町内会を中心に、二〇〇二年に結成されました。活動は、毎年、五から八回ほど、川の中や川沿いの遊歩道、近くの公園の清そうが行われているようです。

この川をきれいにする会の方たちの活動のおかげ

で、千保川はきれいに保たれていて、毎年、川沿いの満開の桜も楽しめているのだと思います。ぼくも、千保川をきれいにする会の活動に参加して、地いきの大切な川を守っていきたいと思います。また、川などの自然を守っていくために、汚さない工夫や努力をしていきたいです。





清流環境體驗賞

低学年部門

最優秀賞

じん虫びょういん

富山市立堀川小学校 二年

清水^{しみず} 岳^{がく}

七月のおわりごろ、おじさんの家の前に、カブト虫のメスがたおれていました。元気がなくて、しにそうでした。

おじさんが、ビニールぶくろに入れて、もって来ました。虫かごに入れて、こん虫のみつをわたにしみこ

ませたものをおくと、カブト虫はすっていました。

おばあちゃんが、友だちのお父さんから、マットとゼリーをもらって、虫かごに入れました。わりばしで、のぼる木を作りました。日中は、マットにもぐっていません。虫かごのそこからのぞいて見ました。夜は、だんだんうごくようになりました。木にのぼったり、はねをバタバタうごかして虫かごにぶつかったりしました。

ぼくは、カブト虫が元気になったので、早く外へかえしてあげようと思いました。さいしょ、「カブ子」とよんでいましたが、おじさんが「ガブリエル」と名づけました。

七月さい後の日の夕方、ガブリエルを公園の木にのせました。ガブリエルはとまっていました。

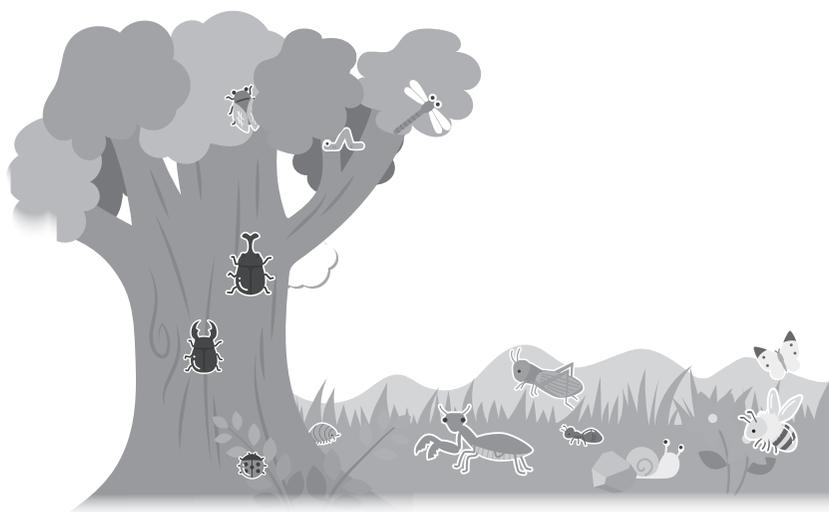
八月になって今どは、おじさんがコクワガタのメスをもってきました。ガブリエルより小さくて、元氣

もありませんでした。

虫かごの中でずっともぐって、じっとしていました。ゼリーもあまりたべませんでした。ゼリーをすこしずつ、たべれるようになりました。夜に、わりばし
の木にのぼるようになりました。ぼくは、クワガタが
元気になって、うれしかったです。コクワガタのメ
スなので、「クワ子」と名づけました。

それから、クワ子を公園の木の下におきました。ク
ワ子は土の中にもぐっていききました。

ぼくは、うちはこん虫びょういんみたいだと思いま
した。元気になって、たいいんできてよかったと思い
ました。



低学年部門

優秀賞

じびきあみをしておもったこと

富山市立宮野小学校 一年

藤澤 ふじさわ
惇希 あつき

「もっとひっぱれ。」

「さかながはさまっとるよ。とれんけ。」

そこではじめてあったおにいちちゃんたちといっしょに、おおきなじびきあみをひっぱりました。はいていたながぐつには、あったかいすが、たくさんは

いって、じゃぼじゃぼいっています。

「さめがとれるかもしれんね。」

と、うしろにいたおとうとはうれしそうにしています。ぼくは、「そうかなあ。でも、でっかいさかながとれるといいなあ。」とおもって、ズボンをぬらしながら、あみをぐいっとひっぱりました。

だんだん、あみのはじっこについている、きいろのうきがちかづいてきました。りょうしさんがあみをあつめて、はさまっているさかなたちをはずして、みずいろのかごにいれていきます。

ぼくは、ちいさなさかなをもちあげてみました。かごのなかではまっすぐなのに、もちあげると、くたつとまがってしまいました。「あついからかな、あみからにげようとしてつかれちゃったのかな。」とおもって、そつとかごにもどしてあげました。

「これはだめやちゃ。みんな、はなれられ。」

よこでは、りょうしさんがせつかくとったエイを、うみになげてしまいました。びゅうんととんだエイは、わらっているようにみえました。そのエイをみたら、さっきのくたつとしたさかなも、うみにかえしてあげたら、うれしいのかもしれないとおもいました。



低学年部門

優秀賞

おじいちゃんのおこめ

富山市立宮野小学校 一年

松井 郁実

わたしのおじいちゃんは、おこめをつくるしごとを
しています。わたしのいえのよこにも、おじいちゃん
のたんぼがあります。

五がつくらいになると、おじいちゃんはたうえきに
のって、ちいさなみどりいろの「なえ」をたんぼにう

えます。たんぼはたくさんあるので、おじいちゃんは、
ともだちときょうりよくしてたうえをしています。

「なえがおおきくなるには、みずがたくさんいるんだ
よ。」

と、おじいちゃんがおしえてくれました。たうえがお
わったあとのたんぼには、かわからきたみずがはいっ
て、おひさままできらきらひかって、とってもきれい
です。なえは、みずのなかでたのしそうにおよいでい
るみたいです。

おじいちゃんは、みずをたんぼにいれたり、くさか
りをしたり、むしにたべられないようにおくすりをあ
げたり、おせわをしてあげます。おじいちゃんにおせ
わをしてもらったなえは、どんどんおおきくなります。

あきになると、いねかりがはじまります。おじい
ちゃんは、コンバインののっておいそがしです。

「たいへんだけど、おこめがたくさんしゅうかくでき

るのはとてもうれしい。」

と、おじいちゃんは、いつていました。

おじいちゃんがつくってくれたおいしいおこめが、
わたしはだいすきです。おじいちゃんがつくってくれ
たおこめをたくさんたべて、おおきくなりたいとおも
います。



低学年部門

優秀賞

これからも、いきものと
なかよくしたい

砺波市立砺波北部小学校 一年

水戸みと
彩音あやね

一ねんせいの一がっき、

「がっこうにいくのがいやだな。きょうもいきたくないな。」

と、くらいきもちで、がっこうにいらってました。

なかよくできるおともだちもすくなくて、やすみじかんはいつもさみしかったです。

しょうがっこうのぐらうんどのおくには、ほくぶの森という森があります。ここには、いきものがいっぱいいて、ばったやとんぼ、かぶとむし、かえる、だんごむしなどがすんでいます。わたしは、やすみじかんのさみしいときには、ほくぶの森にいくことにしました。

ほくぶの森には、いきものがすきなおともだちがいっぱいあつまります。むしのなまえをおしえてもらったり、つかまえかたをおしえてもらったりしました。ほくぶの森には、木やおはななどのしょくぶつもあります。あきには、おちばをいっぱいあつめて、みんなでゆきのようにふらせてあそびました。

ほくぶの森であそんでいるうちに、おともだちがいっぱいできて、がっこうへいくのがまいにちたのし

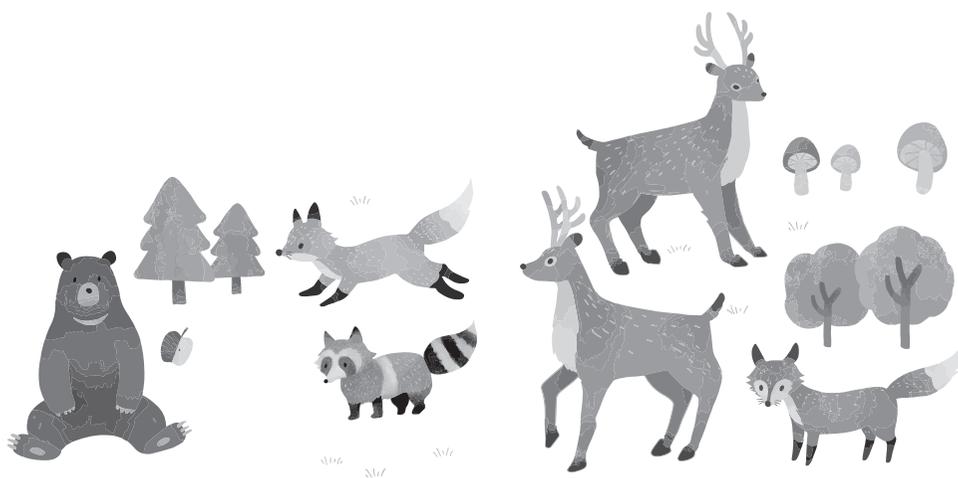
くなりました。ほくぶの森のいきものやしよくぶつに、

「げんきをくれてありがとう。おともだちもいっぱいできたよ。」

と、いいたいです。

ほくぶの森のいきものやしよくぶつが、これからはげんきにすごせるよう、ほくぶの森のせいそうかつどうをしたり、がっこうのまわりをきれいにしたりしていききたいです。

「これからは、ほくぶの森にいっぱいいくからまってね。」



低学年部門

佳作

ゆれたいえ

富山市立八幡小学校 一年

中西なかにし 琉菜るな

おしよがつ、ひさしぶりにいとこたちとおばあちゃんちにあつまって、たのしくおしゃべりしました。ごちそうをたべたりしていました。

すると、おかあさんのけいたいのアラートがなりました。そして、いえのドアやガラスがガタガタなり

ました。ごちそうがのせてあったテーブルもジャンプしてのようにゆれました。いえがこわれるかもしれない、そとににげたかったけど、ゆれがつよくてあ
るけませんでした。

わたしといとことおねえちゃんは、すぐゆれているテーブルにかくれました。はじめての大きなじしんで、なきそうでした。でも、ちかくにいたおかあさんやもうひとりのおねえちゃんに、手をつないでもらったり、「だいじょうぶだよ。」とこえをかけてもらえたりしたので、なかにしががんばりました。

そのあと、つなみがくるからいそいでそとにげました。すると、まわりのいえのブロックべいがこわれていて、とつてもこわくなりました。わたしのころは、ずっとドキドキしていました。

つなみがきて、いえがなくなったらどうしよう。わたしのたいせつなぬいぐるみはだいじょうぶかな。ご

はんはたべれるかな。もっと大きなじしんがきたらどうしよう。たくさんのことがしんぱいでした。いえにかえることがこわくて、おとうさんのくるまでドライブして、やまのうえでねました。

つぎのつぎのひにいえにかえると、いえのなかはかびんがわれていたり、ほんがおちていたりしてぐちゃぐちゃでした。いえのなかなのに、ズックをはいてジャンパーをきて、げんかんには、たべものやきがえのバッグをじゅんびしました。なにをするのもこわくて、ずっとかぞく五にんでくつついていました。

おしよがつのが、いまもわすれられません。



* 中学年部門 *

最優秀賞

おじいちゃんのリマフリン

富山市立八幡小学校 四年

中西 なかにし 滲菜 れいな

この前、わたしのおじいちゃんが天国へ旅立ちました。

おじいちゃんは、わたしたちにいつもやさしくて、おじいちゃんの家から帰るときは、いつも同じセリフ、「気をつけて帰るがやぞー。また来られなー。」と声

をかけてくれるのでした。

そんなおじいちゃんは、田んぼや畑、お花作りもしていて、わたしも小さいときからお手伝いをしていました。何の野菜ができるのか、どんな花がさくのか分からないわたしに、おじいちゃんは、一つ一つうれしそうに教えてくれました。

おじいちゃんが天国へ旅立つ前、病院からたい院したら大好きなお花を見て元気が出せるようにと、おばあちゃんはおじいちゃんのたい院が近づいたときに合わせて、畑にたくさんのお花の種を植えて、育てていました。

「しあさってたい院だね。」と話していた次の日に、おじいちゃんは急に天国へ旅立ちました。おじいちゃんの畑には、おばあちゃんが育てた花がたくさんさいていました。

おばあちゃんが、おじいちゃんのために育てたお花

* 中学年部門 *

優秀賞

きれいな川にすむいき物たち

富山市立宮野小学校 三年

祖泉そいずみ 渉吾しょうご

今年の夏に、ぼくは、友だちと魚をとりに行き、シマドジョウとタモロコと大タニシ二ひきをつかまえました。

シマドジョウは、その名のとおりしまもようのドジョウです。ぼくがそうぞうしたドジョウとちがって

小さかったです。タモロコは、口がコイみたいで、頭がいいのでつかまえるのがむずかしかったです。大タニシは、からがヤドカリみたいで、顔をだしたときはカタツムリにそっくりです。家でそだてるために、水の中に水草を入れました。水草は、さんそを送ったり、よごれをすいとったりするはたらきがあるのです。ぼくが行った川は、とてもきれいでした。

ぼくは、四ひきとも大事にしたいと思いました。しかし、朝おきて見てみると、タモロコが死んでいました。ぼくは、タモロコを土にうめました。

ぼくは、まいばんまいばん、せわをしていました。そしてわかったことがあります。グッピーテトラと
いうえさは、水がきたなくなりやすく、一週間に一回だけの水のこうかんだとすぐにしんでしまいます。

そして、ほかの生き物のせわをしていくうちに、大タニシ二ひきも死んでしまいました。大タニシは、顔

が分かりづらいので、死んでいるのかどうか分かりません。大タニシが活着しているときは、水の中にしずんでいます。しかし、死んだときはういてきます。手でおさえても、放すとういてきてしまいます。

のこりはシマドジョウだけかと思いましたが、大タニシが死ぬまえに、その二ひきがたまたまオスとメスだったので、子どもを三びきうんでいました。シマドジョウと大タニシをそだてて、シマドジョウが二〇日間生きてくれました。

ぼくは、はじめて水の生き物をそだててみたので、二〇日間そだてられただけでも、とてもうれしかったです。

ぼくがそだてた水のいき物を調べてみたところ、大タニシは水そうの中の水をきれいにしてくれるそうです。死んでしまいましたが、タモロコとシマドジョウは、なががいいのでけんかはしません。あと、ぼくが

さいしょにとった川の水はきれいなので、えんそは入っていませんが、水道水はえんそがふくまれているので、魚のエラや体をいためてしまいます。カルキぬきというえきたいを入れると、水道水のえんそもなくなるので、生き物が安しんしてくらせます。

ぼくは、大タニシ一ぴきだけでも長生きさせたいです。



* 中学年部門 *

佳作

いのちを助けるライフセービング

富山市立光陽小学校 三年

菅野 かんの
朔史 さくふみ

今年の夏、ぼくははじめて海で泳ぎました。

「しょっぱい。」

もぐってすぐに、ぼくはぺっぺっとしたを出しました。

海の水がしお味なことは、本を読んで知っていたけれど、思っていたよりもがくて、ふしぎな味がしたか

らです。でも、水がつめたくて気持ちが悪かったから、ぼくは泳ぎつづけることにしました。なみがざぶんざぶんとぼくにあたります。体が重たく感じて、ちっとも速く泳げません。ぼくは、水泳を習っているので、泳ぎには自信がありました。でも、海だとうまくいかなくて、プールとは全然ちがうだとおどろきました。

この日、ぼくはライフセービングの体けん会にさんかをしました。ライフセービングとは、水の事から人をまもる仕事のことです。水上バイクやレスキューボードなど、いろいろな道具を使ってきゅう助を行うそうです。ライフセーバーの先生は、オリンピックせん手のようにきん肉がすごくて、とてもきたえているんだなとぼくは感じました。だけど、その強そうな先生は言いました。

「ゆだんしないために、かならずライフジャケットを

着ています。」

ぼくは、どきっとしました。今まで船やボートにのるときにライフジャケットを着たことがあったけれど、少し面どうだなと思っていたからです。

ぼくは、ライフジャケットを着て海に入りました。深い所まで行っても、体がういてしずみません。先生に言われて、手足を伸ばしておおむけになりました。ぶかぶかと体はういたままです。なみが来ても、大じょうぶでした。海は、プールにくらべて泳ぎづらいけれど、ライフジャケットがあると安全なことがよくわかりました。

夏の間は、水の事このニュースを見ることがふええます。そのたびに、ぼくは、とても悲しくなってしまう。ぼくは、だれにもあぶない目にあってほしくありません。いつか、ぼくもいのちを助けることができるようになるかもしれないから、ライフセービング

について学びたいと思っています。



* 中学年部門 *

佳作

一年間、自然とふれあって

高岡市立高陵小学校 四年

塚本^{つかもと} サンドラ

私の住んでいる富山県は山があり、川があり、日本の美しい自然があります。

春には、古城公園のサクラを見ながら、家族でサイクリングをします。サクラの成長をかんじながらのサイクリングは、とても楽しいですが、葉ザクラとなり、

ちつていくサクラはさみしくも感じます。

夏には、犬といっしょに川へ行きます。かせんじきで、犬と走ったり、犬が川で泳ぐすがたを見ると、自然のありがたさに気がつきます。ただ、かせんじきにゴミを捨てる人もいます。ゴミを見るたびに、心がいたみます。人間だけのものではなく、多くの生物が安心できる場所になるよう、私たちが気をつけなければなりません。

秋には、こう葉を見ながらさん歩に出かけます。オレンジ色にかわった葉や、どんぐりやまつぼっくり、コオロギやキリギリスのなき声に、秋のおとずれを感じます。落葉がふえると秋が終わり、長い冬の始りを感じます。

私の一番すきな冬には、スキーへ行きます。山の山頂^{さんちよう}からすべるのは、とても気持ちがよく、また、山頂はとてもしずかで、鳥のさえずりを聞き、木のゆれ

る音に耳をすませて、山でしか聞くことができないと
く別な音をかんじます。毎年、スキー場の人が名前を
よんで手をふってくれます。元気なえがおは、とて
もうれしくて、人と人のつながりやあいさつはと
ても大事です。自然からは、多くのよろこびや思い出
をもらっています。ここ数年は、温暖化で雪が少な
く、スキーができない日がふえています。

一年間、私は自然と遊び、自然とともに生活をして
います。木が少なくなると、日かげがなくなり、道が
暑くなり、犬はさん歩ができなくなります。川には、
ゴミがすてられ、ひどいときには、テレビやタイヤな
どがすてられています。人間が、自然を全てよごして
います。自然を大切に思う心が必要です。そのため
には、自然と遊ぶこと、自然とふれあうことが、ま
ずさい初の一步だと思います。

富山県は自然がゆたかです。百年後もこの美しい自

然をのこせるよう、私たちのいしきをかえなければ
なりません。



* 中学年部門 *

佳作

遠くまでおさんぽ

富山市立宮野小学校 三年

山口 やまぐち
恵生 えみ

わたしは、宮野小学校の三年生。婦中町に引っこし
てきて三年目になりました。そして、ポメラニアンの
ラミちゃんとすごす二年目の夏になりました。

今年の夏は、毎日朝からとても暑くて、夜も気温
が下がらず、ラミちゃんとあまりおさんぽができま

せんでした。犬は、人間より地面に近いところにいる
ので、ねっ中しようになりやすいし、あつくなつたア
スファルトで肉きゅうがやけどしてしまうからです。

この夏は、ラミちゃんとお家の中で遊ぶことがふえ
ました。ラミちゃんは、ボールのもってこい遊びがで
きるようになりました。ラミちゃんのかわいいとこ
ろは、ボールを追いかける後ろすがたです。おしりと
しっぽをふりふりするのがかわいいです。

二さいになった春ごろには、ラミちゃんは遠くまで
おさんぽできるようになりました。お気にいりのさん
ぽコースが二つふえました。

一つ目は、わたしの家から歩いて三〇分くらいのと
ころにある、ほたる川という場所を流れるつぼの川の
川ぞいの道です。ここは、春になると、川ぞいのさく
らなみきがとてもきれいにさきます。さくらがちると
きには、地面がさくらの花びらでうめつくされて、ピ

ンク色になって、ラミちゃんもうれしそうです。つばの川には、ところどころ、川の近くまでおることができる広いかいだんがあって、ラミちゃんといっしょにきれいな川の流れをながめることができます。

二つ目は、そえじまんどこという場所です。そえじまんどこの「どんどこ」は、調べてみたら、水路のだんさの水がたまる場所のことでした。むかしは、どんどことよばれるところがたくさんあったようです。そえじまんどこには、ひょうたんみたいな形の池があり、用水路から引きこんでいる水が小川のように流れています。地いきの人たちがかんりして、草かりなどをしてきれいにしてくれているので、池の中心の橋から、池の中のメダカやオタマジャクシをラミちゃんといっしょに見ることがができます。

わたしの家のまわりでは、九月になっていねかりがはじまりました。まだまだ、毎日暑いけれど、秋にな

りすずしくなったら、またラミちゃんといっしょに遠くまでたくさん歩いて、新しいおさんぽコースを見つけるのが楽しみです。



* 高学年部門 *

最優秀賞

水とお友達

富山市立堀川小学校 五年

金川^{かながわ} 実優^{みゆ}

私は、小学校三年生の夏休みにイタイイタイ病について調べるために、初めて資料館を訪れました。水が汚染される恐怖や、イタイイタイ病の怖さを知って驚きました。富山県で起こった公害病を、しっかりと心に置いておきたいと感じました。

しかし、五年生の校外学習で再び資料館を訪れて、三年生のときに感じた気持ちを忘れていたことに気づきました。蛇口をひねるだけで美味しく、安全な水を使うことができる毎日で、イタイイタイ病を心に置いておくことができませんでした。この反省を生かし、もう一度水と向き合いました。

私のおばあちゃんとおじいちゃんが住んでいる大泉北町では、たくさんさんの家の前に井戸水が湧き出っていて、夏の暑い日でもとても冷たく、すごく美味しいです。他にも、いたち川のどんどこ近くの浅瀬は、弟やおばあちゃんとよく来る場所で、川の中にある石を並べて重ねて遊んだり、生き物を見つけたりして遊んでいます。川の水遊びは、とても冷たくて気持ちがいいです。いたち川の川沿いには湧き水が多く、延命地蔵のお水は、万病に効く霊水といわれています。そんな魔法のような水を私も飲んでみたくなり、大泉駅上流から

松川の合流口までの、二・七キロメートルの間にある一九体ものお地藏さまを一つずつ見て回りました。

どうしてそんなに多くのお地藏様がおられるのか不思議に思い、その歴史を調べると、安政五年の飛越地震で土砂が辺りに広がり、いたち川がはらんし、多くの犠牲と病人が出たことが分かりました。このとき、お告げに従って、川からお地藏様を拾い上げた結果、病気に苦しむ人が少しずつ良くなっていったそうです。

この地の湧き水の効果は病気だけではなく、いたち川の川沿いにある子安地藏尊の湧き水を飲むと、妊婦さんは安産になると言われていて、私のお母さんも私を産む前に、この水を飲みに来たことがあるんだよと聞きました。

子安地藏尊から川沿いに北へ進むと、車が並んでいて数人の方がおられました。そこは、石倉町の延命

地藏の湧き水で、平成二三年に富山の名水百選に選ばれており、お地藏様にもお花が供えてあり綺麗でした。お地藏様巡りをしているうちに掃除をしている地域の方と出会い、「延命地藏と湧き水」はこの町の人にとって救世主であり、大変大切に守ってくれる存在なのだと感じました。

いたち川や延命地藏などについて調べてみて、地域の人と水や川の繋がりを感ずることができました。私たちは、水に恵まれていて水とお友達です。今の私にできることは、水を大切に使うことや川を汚さず綺麗にすること、川遊びを心から楽しんで川を好きでいることです。これからもずっと水とお友達でいたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

「海と川」いろいろな自然に触れて

富山市立速星小学校 五年

土井 美空^{どい みそら}

私は、夏休みに家族と一緒に、お父さんの実家へ行きました。山や川、海などへ出かけました。山や川、海などはキレイなイメージがありました。私が見た山や川、海などは心からキレイと言えるような景色ばかりではありませんでした。

山には、誰かが捨てたのか、どこから飛んで来たのか分からないゴミが落ちていたり、川にもどこから流れ着いたのか分からないようなゴミなどが、たくさんありました。何よりも私が一番驚いたのは、海には、毎日毎日、たくさんゴミが流れ着いてくるということでした。

私は、一週間くらい、毎日、海へ遊びに行きました。その度に、新しいゴミが、波打ちぎわに打ち上げられています。ゴミには日本の物だけではなく、海外のゴミなどもたくさんあります。テトラポットの隙間には、本当にたくさんゴミが挟まっています。一番多かったゴミはペットボトルでした。

そんな海だけど、魚釣りをすればたくさん魚が釣れます。美味しい魚ばかりではなく、きれいな石や貝や、シーグラスなどもたくさんあって、天気の良いおだやかな日は、すき通っていてとてもきれいな海です。

それなのに、毎日どこからか流れ着いて来てるゴミ。そのゴミを見て、私にできることは何かと考えました。せっかく毎日海へ遊びに行っているんだから、自分のできるはんでゴミを拾って持ち帰り、分別して捨てることでした。だから私は、海へ遊びに行ったときに、自分ができるはんで、ゴミを拾い持ち帰り、分別して捨てました。

それでも、海へ打ち上げられるゴミは、減ることはなくて、数時間前までなかったはずのゴミが流れ着いていました。

山にはたくさん動物がいて、川や海にはたくさんの魚などもいるのに、このままゴミが増え続けたら、山にいる動物も、川や海にいる魚なども、いなくなってしまうんじゃないかと思うと、悲しい気持ちになりました。ゴミを増やさないために、自分たちには何ができるのか考えるきっかけになりました。だから、私

はできるだけゴミを出さないようにして、山や川、海へ行ったときには、自分のできるはんでゴミを少しでも拾い、山や川、海をきれいにしたいです。

「山や川、海って本当にすごいんだよ。」「こんなにもキレイなんだよ。」っていろんな人に思ってもらいたいです。

山や川、海へ行った人が一人一つのゴミを拾って持ち帰るだけで、きつと少しだけど、自然をきれいにすることができると思いました。



* 高学年部門 *

優秀賞

ホタルの光をもう一度

小矢部市立東部小学校 五年

山本 麻央

今年も六月がやってきて、田川谷内川のホタル観察会を楽しみにしていた私は、少し心配していました。

今年の七月、大雨で川があれしてしまったことを思い出していたからです。でも、川も元通りになってきているようにみえるし、きっと今年もたくさんホタル

が見られるはずと、自分に言い聞かせながら川に向かいました。

けれども、川に着いたとき、私は息を飲みました。去年は無数に飛び交っていたホタルたちが、今年は少なくなっていたのです。目をこらしても、ちらほらとしか光が見えません。私は胸がぎゅっと痛くなって、「どうして?」と心の中で何度も問いかけました。

私はすぐに母や地元の人たちに話を聞いてみると、昨年の大雨の影響で、川の幅がせまくなり、ホタルたちの住んでいた場所の土や、植物が、流されたりしたことが原因かもしれないと、教えてもらいました。ホタルたちが減ってしまったなんて、信じたくなかったけれど、現実を目の前にしてどうしようもない悲しさがこみ上げてきました。「このままでは、来年もつとホタルが減って、いずれホタルがいなくなってしまうかもしれない…」そんな不安が頭をよぎりました。でも、その一方で、「何とかしたい」という気持ちも

強くなりました。あのホタルが無数に光る美しい光景をもう一度見たい、地球のみんなに見続けてもらいたいと思いました。

その夜、私は家族と一緒にこれからどうすればいいのだろうと話し合いました。まずは、川の掃除活動に参加して、少しでもホタルが戻ってこれる環境を作ること。そして、川の幅を改善するために何かできるか調べることに。

ホタルの幼虫が育つためには、清らかな水が必要で、成虫まで育つためには、安全に過ごすための草木も欠かせません。まだ何をどうすればいいかはつきりわからないけれど、私たちができることを地元の人たちと考え、自然環境を整えるお手伝いができたらと思いました。

地元の公民館で、地域の人たちがホタルの住む田川谷内川を守るための活動をしようと考えていると聞いて、私はほっとしました。みんなで力を合わせれば、

きっとホタルの数は前と同じくらいに戻ってきてくれるはず。地域で行われる保護活動に積極的に参加して、地域の人たちとホタルの環境を守り、数を増やしていきたいです。今年見たホタルたちが卵を産み、一年かけてしっかり育ってほしいです。来年は今年よりたくさんのホタルが飛び交う光景が見られるように願っています。ホタルが増えてくるには時間がかかると思うけれど、ホタルが無数に舞う田川谷内川にもどりたいです。

毎年、ホタル観察会で多くの親子が参加して、ホタルの美しい光に包まれ、幸せな気持ちになります。車で通ってしまうと、川があるのかさえ気付かないような小さな川ですが、その川に広がるホタルの光景は、私たち地元の未来へ大事に引きついでいきたい宝物です。

* 高学年部門 *

佳作

自然災害ってこんなに怖いんだ

富山市立新保小学校 六年

井下^{いした} 結羽^{ゆう}

あのころの私は、自然災害の恐ろしさについて、全然知りませんでした。内心、自然災害が起きて、なんとかなると思っっている自分がいました。けれど、令和六年一月一日にやっと分かりました。自然災害がどれだけ恐ろしいのか。

令和六年一月一日に襲った能登半島地震、能登は、最大震度七を観測しました。実際に私たちが住んでいる富山県でも、最大震度五強を観測しました。地震が起きたとき、私は、岐阜県のおじいちゃん、おばあちゃんの家に行きました。その岐阜県でも最大震度五弱でした。私のおじいちゃん、おばあちゃんでも、「こんなに大きい地震は初めてだ。」と言っていました。私はとても怖くなりました。生まれて初めてこんな大きな地震を実際に体験して、いつもの避難訓練では、すぐ机の下に入って自分の身を守るのに、本当の地震になると、すぐには机の下に入れませんでした。家に帰るといろいろな物がずれていたり、落ちていたりしていました。テレビをつけると、被災地の映像がたくさん映っていました。中には家族を失ってしまった人、家を失ってしまった人など、たくさん心苦しくなるような映像が映っていました。

どれだけの人が家族を失い、家などを失ったのか調べてみると、死者三一八人、全壊棟数は八七九五棟と書かれていました。私がお家を失った立場だったら、私が家族を失ってしまった立場だったらどうなっていたのか考えるだけで、胸がゾクツクとします。でも、能登には私より小さい子もたくさんいます。そう思うと、もしかしたら私よりもっと小さい子でも、家族や家を失った人がいるのかもしれないということです。

また、今回の能登半島地震では、地震だけではなく、津波も起こりました。私の地域では、津波は来ませんでした。けれど、能登には、道路が見えなくなる大きな津波が来てました。テレビでは、津波で命を失った人も、何人もいると報道されてました。地震に追ってくる津波、そして、何回も来る余震。どれだけ能登の人は辛い思いをしていたのか。

私は令和六年一月一日にやっと分かりました。

「自然災害ってこんなに怖いんだ。」

一月一日は冬休み、元日でした。私は家族と一緒にいました。だから助かったと言ってもいいかもしれません。けれど、これが平日だったら、私はどうなっていたのか。これからも地震は起こります。地震が起きるのはまた家族で集まっているときとは限りません。だから、いつでもどこでも、誰といっても自分の身を守って、避難できるようにしていきたいです。例えば、学校の避難訓練で本当に地震が来たと思って一回を大事にすることや、家族と避難場所について話し合ったりすることです。

地震は今、来るかもしれない。本当の地震が来たときにしっかり自分の身を守るように、対策をしていきたいです。

* 高学年部門 *

佳作

海の生き物を助けたい

富山市立堀川小学校 六年

姫野^{ひめの}
葉央^{かお}

「こんなにたくさんのごみが…」
私がサイクリングに行ったときに見た海は、イメージしていたきれいな海とは違い、たくさんのごみが落ちていました。

私は、海の近くに住んでいるわけではなく、海によ

く行くわけでもありません。それでも、たくさん的大海ごみから、海の生き物を助けたいと思いました。なぜなら、私は生き物が大好きだし、悪いわけでもない海の生き物が、人間のせいで大変な目にあっているなんて、かわいそうだったからです。

私はまず、海洋ごみについて知ることが出来るイベントに参加しました。実際に浜黒崎海岸に行き、砂浜に落ちているごみを拾いました。拾ったごみを見てみると、プラスチック片が多く、海の生き物が間違えて食べてしまう、体が傷つくなどの可能性があって、とても危ないと思いました。また、ふるいでマイクロプラスチックも集めてみると、小さなプラスチック片や肥料コーティングカプセルなど、海の生き物が間違えて飲み込んでしまいそうなものがたくさんありました。

実際に調べてみると、プラスチックをえさと間違え

て食べてしまったり、漁網が体に巻きついたりして、死んでしまう海の生き物が多くいることがわかりました。

そこで、海の生き物たちを助けるために、私にできることを本やインターネットで調べることになりました。すると、私にもできるような簡単なことがたくさんありました。例えば、布のマイバッグを使う、包装の多い商品は買わないなどです。また、海や砂浜にあるごみの約八割は陸からのごみであり、風や雨などで川や用水路などに行き、やがて海に流れていくと知り、風や雨の強い日は外に物を置かないなどの、ちょっとした心がけが大切だと思いました。

私はごみを減らすために、みつろうラップを作ってみました。みつろうラップとは、ミツバチの巣からはちみつをとったときに残る、みつろうを使うラップのことです。市販されているラップはプラスチック

の仲間で使い捨てですが、みつろうを布に染み込ませることで、水洗いすると、繰り返し使える環境に優しいラップができます。

私は、海の現状や、海の生き物を助けるためにできることを調べ、実際にみつろうラップを作って、少しの意識が海の生き物を助けることにつながることを知りました。すると、少しでも海の生き物を助ける役に立ちたいという思いがより一層強くなりました。そのために、他の国や日本、県、市などの取り組みを調べてみる、他の人の取り組みを知るなどして、参考にしてみたいです。

そして、私一人ではなく、クラスの人に海洋ごみのことを知って意識してもらい、みんなで海の生き物を助けたいです。



清流環境科学賞

* 低学年部門 *

最優秀賞

がんばるいのち

富山市立宮野小学校 一年

鈴木^{すずき} 華乃^{かの}

どこでも、むしがいたりはながさいたりしているのはいっしょです。でも、どんないきものがあるかはちがいました。ばしょがちがうと、いきものやはながちがっていて、よくできているなどおもいました。

わたしは、ながのけんの、つがいけしぜんえんにい

きました。あぶがはなのなかにもぐって、みつをすっているのがかわいかったな。

むらさきいろのかわいいはながありました。いっしょにいったおばあちゃんが、なまえはとりかぶととって、ねっこにどくがあるとおしえてくれました。どくのあるはなもあるから、きをつけようとおもいました。

ぶどうみたいなみや、あまそうなまっかなみもありました。

つかれてすわろうとしたら、きのいすからちいさなきのこがはえていました。よくみると、ちいさなすきまからはえていました。かわいいなとおもいました。ちいさいきのこだけど、がんばっていきっているなともいえました。

いけには、いとみたくなくさもはえていました。なんでみずのなかでそだったのか、ふしぎでした。

みやのとつがいけでは、ちがうむしや、はながあり
ました。でも、どっちもいっしょうけんめいはたら
いて、いきっているとおもいます。すごいなとおもいま
した。いっしょうけんめいいきっているいきものやはなが、
とってもすてきでした。



低学年部門

優秀賞

うちにヤモリがきたよ

富山市立宮野小学校 一年

いがらし
五十嵐 優翔

七がつにはいったあるよる、だついじよのほうから、おかあさんがおおきなこえで、「ヤモリがいるよ。」と行ってきました。

ぼくは、はしつてみにいきました。みたら、そとがわのまどに、ヤモリがはりついていました。おかあさ

んが、「ごはんたべにきたんだね。」と行っていました。

ぼくは、きょねんもおなじようなじきに、まどにヤモリがはりついていたので、このこがまたうちへきてくれたのかなとおもいました。まいにち、よるになると、ヤモリがきました。さらにもういっぴきふえてどこまでふえるのだろうと、ぼくはきょうみしんしんでした。

そして、なぜよるにしかヤモリはみれないのだろうと、いろいろしりたくなり、おかあさんとしらべることにしました。

まず、そとにでてそつとみてみることにしました。しつばがながく、てあしがかわいかったです。でもぼくがいることにきづいたのか、にげられてしまいました。とても、はやかかったです。

ヤモリは、よるにかつどうするやこうせいで、ゴキ

ブリやシロアリ、カ、クモなどのがいちゅうをたべてくれるいきものらしいです。

そして、ヤモリが、きけんをかんじたときには、じぶんのしっぽをきりおとしておとりにつかうとしり、ぼくはびっくりで、いたくないのかなとおもいました。しっぽは、またはえてもどるみたいなのでよかったです。

さいごに、ヤモリはとてもえんぎのいいいきものとしていられていて、かんじでもいえをまもるとかいて、したしまれているので、またらいねんもずっときてほしいなとおもいました。



低学年部門

優秀賞

ぼくができること

高岡市立下関小学校 一年

伊橋 いはし
蓮和 れんと

とやまけんの水は、おいしいときいたことがあります。どうしてとやまけんの水がおいしいといわれているのか、きになってしらべてみると、たてやまれんぼうがかんけいしていることがわかりました。

とやまけんは、あめやゆきがおおくふります。たて

やまれんぼうにつもったゆきが、ゆきどけ水になって、ダムからつめた水がたくさんながれだすそうです。ぼくには、とやまけんの水で、じまんしたいことが二つあります。

一つめは、ぜんこくのスーパーやじどうはんばいきでうられている、ペットボトルの水の一ぶに、とやまけんであつた水がつかわれているということです。おいしい水をまもるために、木をうるかつかつどうをおこなって、水げんをほごしているそうです。

二つめは、ホテルがみられるばしょがあるということです。ホテルは水がきれいなばしょがすきで、むかしとくらべると、ホテルのかずがへっているそうです。ぼくは、きょねんの六がつにホテルをみにいきました。まわりはくらくてすこしこわかったけど、ホテルのひかりがとってもきれいだつたのをおぼえています。どうしてこのちいきにホテルがせいそくできるの

か、ふしぎだったのでしらべてみました。ホタルをまもるためにゴミをひろったり、たおれた木をかたづけたり、ほごかつどうについてのおはなしをおこなったりしているそうです。

さいごに、ぼくがおもったことは、きれいな水をまもりつづけるためには、たくさんの人のだよりよくがひつようだということです。水がきれいだとおいしいおこめができるし、いきものもすみやすくなります。

ぼくはみんながどりよくしてつくってくれたきれいな水をまもるために、二つのことをやくそくします。

一つめは、はみがきやてあらいのときに、水をだしっぱなしにしないこと。

二つめは、川やいけなどにゴミをすてないことです。

ぼくがおとなになっても、きれいな水のままであってほしいし、もっとたくさんの人に、とやまけんの水

はきれいでおいしいということをしつてもらいたいです。



低学年部門

優秀賞

ぼくのザリガニ

高岡市立国吉義務教育学校 二年

小神 幸平
おこう こうへい

ぼくは、家の近くの用水ろでザリガニを見つけた。あみでつかまえたようにしたけれどにげられるので、すででつかまえました。むねをぎゅっとつかむとこわくありません。

大きさは、一五センチメートルくらいでした。し

らべたら、あと五センチメートルくらいせい長するらしいです。

さわってみると、ざらざらしているぶぶんや、ぶにぶにしているぶぶんなど、いろいろなかんしょくのちがうところがいっぱいあります。はさみに手を近づけると、すばやくつかまれて、ものすごくいたかったです。水の中にいれて、手をふるとはなしてくれました。

ふつう、かっぱつにうごいているけれど、人がくると、すぐすきまなどにかくれて、とおざかるのをまって、とおざかったら、またかっぱつにうごきます。人をこわいそんざいだと思っっているんだと思います。

あさみてみると、ザリガニがだっぴしてました。だっぴしたてのザリガニは、やわらかくて、前よりも大きくなっていました。からをそのままほうちし

ておくと、たべていました。おいしいのかなと思いました。

いつもかんさつしたり、エサをあげたりしています。たまにだしてあそびます。ぼくのことになれてきたみたいです。このザリガニが産らんしているところを見てみたいです。長生きしてほしいです。



低学年部門

佳作

きれいなほたる

富山市立宮野小学校 一年

土屋 つちや
琴波 こなみ

「こなみ、ほたるがいるよ。」

おかあさんがいいました。わたしのいえのうらには、ようすいろがあります。六がつごろになると、ほ

たるがみえることがあります。

「え、みたい。」

わたしは、かぞくとそとへでました。きいろみたいな、きみどりいろみたいないろが、ついたりきえたりしていました。わたしは、とてもきれいだな、とおもいました。ほたるがどんなかたちをしているか、きになりました。そこで、かいちゅうでんとうで、そつとてらしてみました。すると、ちいさくて、くろいからだがみえました。おしりのほうがひかっていました。とてもふしぎだなとおもいました。

おとうさんが、

「ほたるは、きれいなみずとくさがあるばしよじやないといきれないんだよ。」

と、いきました。ほたるのようちゅうを、ちいきのひとがはなしていることもしりました。たくさんのおひとによって、いまここにほたるがいるんだなおもいました。

また、らいねんもほたるにあいたいです。そのためにも、かわをきれいなままにしたいです。



低学年部門

佳作

水をたいせつにしよう

富山市立宮野小学校 二年

中尾 優月
なかお ゆつき

わたしは、きよねん、イタイイタイびょうについて
くわしく知りたいと思い、おかあさんといっしょにイ
タイイタイびょうをしらべました。

イタイイタイびょうをしらべるうちに、ほかの国で
も水がげんいんで、かかってしまうびょうきがあるの

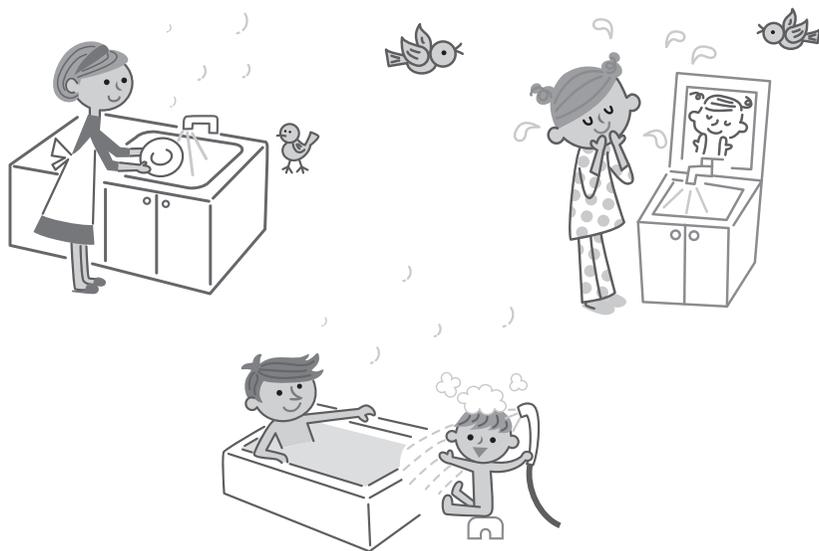
ではないかと思い、今回は、せかいの水もんだいをし
らべました。

わたしがくらす日本では、水どう水がのめて、おふ
ろもきれいです。しかし、せかいでは、つかいたいと
きに水がつかえなかったり、水がのめなかったりする
国があることを知りました。日本の水はあんぜんにか
んりされたとてもきれいな水ですが、アフリカなど、
せつび、かんきょうがとこのついでないばしょは、水
じたいが少なく、とてもきちょうです。あまりきれい
ではない川や池の水をのんだり、りょうりにつかった
ります。すると、げりやかんせんしょうなどのびよ
うきになってしまい、ひどいばあいはしんでしまう
そうです。

わたしがいちばんかなしいのは、せかいでは水がげ
んいんのびょうきで、わたしと同じ小さな子どもたち
が、一日でやく五、〇〇〇人なくなっていることです。

おとうさんとおかあさんに聞きながら、そのことを考えてみました。まずは、水をたいせつにつかうこと。手をあらうとき、シャワーをするとき、はをみがくとき水を出しっぱなしにせずこまめに水をどめる。もうひとつはきたないものはできるだけ流さないことです。せっけんやシャンプーをひかえめにつかってあわをたくさんがさないようにします。あとは、おかあさんとおとうさんにはりょうり中にあぶらを流さないようにおねがいをします。

ちよくせつでできることはないかもしれませんが、自分にできることを少しずつしていきたいと思います。水はみんなのもの。



* 中学年部門 *

最優秀賞

大切な水のためにできること

高岡市立高陵小学校 四年

志水^{しみず}
仁美^{ひとみ}

一学期、社会科で上下水道の学習をした。

浄水場では、川の水を安全でおいしい飲み水にするための工夫とど力を学んだ。下水しよ理場では、よごれた水を、かん境に害の無い水にするための工夫やど力を学んだ。どちらのしせつでも、水の大切さを教え

てくださった。

私の家では、前から「水の無だ使いをしない」ために、風呂の水は洗たくに、歯みがきでは流しっぱなしにしないなど、約そくを決めてがんばってきた。

けれども、この他にも気を付けられないか、水を使う場面を観察した。なかなか、問題に気付けなかった。ある日、母の食器洗いを見ていて、あれっと思った。母は仕上げ洗いのときに、流水を使っている。その後、食器かごに入れる何秒間か、水を流しっぱなしにしていた。これはもったいない。どれくらいの水が無だになっているのだろうと思った。

そこで、その数秒間にどれだけの水が流れていたのか、量を調べた。約四秒間で五〇〇ミリリットルだった。洗う食器は何こもある。ということは、一回の食器洗いで、何リットルも水が無だになっていることになる。これが毎日続くから、大変な量になる。

この重大問題を母に話した。そして、食器洗いのおき、こまめに水を出したり、止めたりする約そくを増やした。

ところで、気になることが一つ浮かんだ。

私のおばあちゃんは、じゃ口からシャワーにして、食器を洗っていた。その方が、早く洗えるからだそう。だ。「本当かな。」と思った。そこで、じゃ口をシャワーにしたときとそうでないときとで、洗い上がりの時間に差があるか調べてみた。結果、わずか二秒だけど、シャワーの方が速かった。

このように、小さくて見すごしてしまうようなことや方法にでも、水を大切にできるコツがあると分かった。そして、毎日の小さな積み重ねが、大きな成果につながると思った。まだあるかもしれない。例えば、食器に食べるのこしが多いと、洗剤を多く使い、洗った水もいっぱい使ってしまう。水を使うだけでなく、きた

ない水を増やしてしまう。それを防ぐために、のこさずきちんと食べることが大切だ。

これからも、大切な水のために、生活を見つめ、どんな小さな工夫や努力でも、つづけていきたいと思った。



* 中学年部門 *

優秀賞

みんなで学んだ下水道

高岡市立野村小学校 四年

岡本 春裕
おかもと しゅんすけ

「校外学習で、浄化センターに行くよ。」

ぼくは、社会科の勉強が大好きです。お母さんに校

外学習の予定を、ワクワクしながら話しました。

「えー！ 下水しょ理場に行くの？ 行ったことある

けど、楽しくなかったよ。」

お母さんはそう言って、小学生のときに見学したことを話してくれました。昭和の終わりごろ、校外学習で見学したこと、においがきつくて食よくがなくなったこと、かんとんに汚水おすいをこして海に流していたことなどです。ぼくは、そんなわけないと思ったし、そんなことをしていたら、大問題だと思いました。

浄化センターで、まず下水道のしくみを教えてもらいました。下水管は、トイレで流した汚物おぶつや、台所やお風呂で使った汚水が流れます。道路の下に大きな大きな管がうめられていて、浄化センターに向かって流れていきます。下水管と同じ大きさの管が外に置いてあって、大人でも立って入れる大きさだったので、おどろきました。

浄化センターに集まった汚水は、び生物の力をかりて汚れを食べてもらいます。けんびきょうで見せてもらいました。汚れよごの中からモゾモゾと動く、び生物が

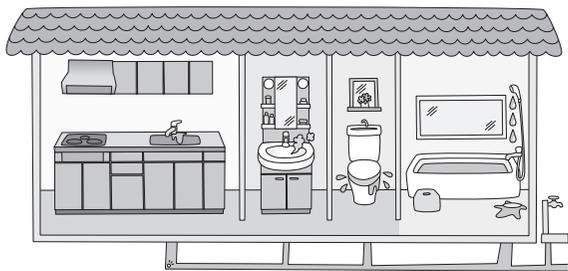
見えました。

重くなっただけでしずんだび生物や、汚物をかわかして、ギョツと集めた立方体も見ました。カチカチのブロックのように、全然においがしません。それを道路工事のざい料に使うそうです。とてもかしこい考えだと思いました。

ぼくは、浄化センターで見たことや、教わったことを家族に話しました。川や海をきれいに保つたために、とてもがんばっているということ。においもなく、さい後にはとてもきれいな水を、川に流していることです。それから、水のむだ使いをしないことや、台所に油や食べかすを流さないように、みんなで気を付けようねという話をしました。

今は、外でマンホールを見たら、
「浄化センターにつながっているんだな。」
と思うようになりました。浄化センターは、ぼくたち

の生活に必要です。でも、みんなが水を大切に使い、川や海を汚さない活動をすることも必要です。これからも、いろいろなまちのしせつのことを勉強したいです。そして、かんきょうを守るための意見を出していきたいです。



* 中学年部門 *

優秀賞

富山の美しい海を守るためには

富山市立鶺坂小学校 四年

丸山 まるやま 藍 あい

わたしの家族は、海へドライブに行くのが好きです。富山県は日本海に面していて、東に行っても、西に行っても、きれいな海をながめることができます。朝日町のヒスイ海岸や魚づ海岸、岩せ浜があり、ふし木港、雨晴海岸など、それぞれちがったみ力がありま

す。

ヒスイ海岸では波にけずられて、みがかれた小さくてきらきら光る宝石のような石が、一面に広がっています。魚づ海岸は、波消しブロックに大波がうちつけ、とてもはく力があります。ふし木港は、貨物船につむコンテナがたくさん積みあげられ、船にコンテナをのせるためのとても大きな機械があります。雨晴海岸は、立山と海を同時に見ることができ、ぜっ景スポットです。わたしはどの海も大好きです。

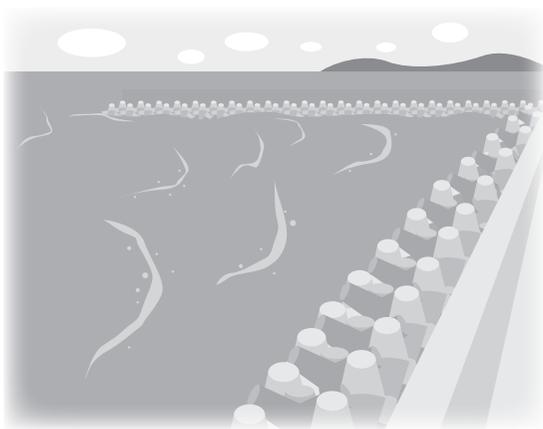
家族で海に行くときは、大きな水とうとゴミぶくろを必ず持って行きます。なぜなら、海で飲み物を買って、空きかんやペットボトルをすててきてはいけないと思ったからです。ゴミぶくろを持っていくのは、おやつのゴミを持ち帰るためと、もしゴミが落ちていたらひろって帰るためです。

テレビのニュースで、海にすてられたゴミや海に流

れついたゴミが、浜べをおおいつくすようにちらかっているのを見たことがあり、悲しい気持ちになりました。人間がすてたゴミを、海の生き物がエサとまちがえて食べてしまうそうです。わたしは、人間は陸上でしか生きることができないのに対し、海の生き物は、海でしか生きることができません。人間が海をよごすことはしてはいけないと思います。それが、海の生き物を守り、地球かんきょうを守ることにつながります。

わたしが遊びに行った富山の海では、たくさんゴミが落ちていたのを見たことがあります。どうしてだろうと考えてみました。インターネットで富山県のホームページを見ると、「とやま海ごみボランティア部」という団体が、県内の海岸などで清そう活動を行っているそうです。八月二五日に、海老江浜の清そう活動が予ていされています。わたしはこの活動にさん加できなくても、海へ遊びに行ったときには少

しでもゴミをひろって、美しい富山の海を守りたいと思います。わたしが大人になっても、その先の未来も、ずっと美しい富山の海が保たれていることをのぞんでいきます。



* 中学年部門 *

佳作

どうぶつのくらし方

富山市立宮野小学校 三年

松田 まつだ 心葉 このか

夏休みに、どうぶつのふれあい体けんに行って来ました。そこで、わたしはモルモットやふくろうやアルパカなどを見たりさわったりしました。

モルモットをさわってみると、ふわふわで気持ちよかったです。ふくろうは、動かずじっとしていました。

アルパカは、毛がもこもこでした。家で、どうしてこのどうぶつたちはあんまり見ないんだろうと思って調べてみました。

モルモットは、草原に住んでいて、温かくてかんそうしている場所がすきです。にげることがが手で、てきにすぐにつかまってしまいます。日本は、草原がなくて、冬はさむいので生きていきません。ふくろうは、森や林で生活しています。えさが多くて、すが作りやすいからです。人間の近くでは、音や光がストレスになります。アルパカは、遠い国の高い場所に住んでいます。すずしくてかんそうしている場所で生活しています。毛がもこもこなので、日本の夏はあつすぎて、生活しにくいです。これが調べて分かったことです。

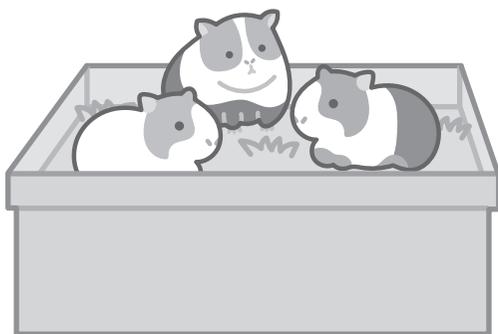
モルモットはしぜんの中にいたら、かわいいけど、きけんだと思います。ふくろうは、ストレスになら

ないために、森にいるんだなと思いました。アルパカは、日本に住んでいたら、夏はあつくてかわいそうだと思います。アルパカの毛があんなにふわふわなのは、すずしい所でもさむくないように、体をまもっているんだということが分かりました。

わたしは、モルモットもふくろうもアルパカも、自分の家のまわりにいたらいいのになと思っていただけ、それだと、どうぶつたちが生きていけないので、だめなんだなと思いました。世界で、温かい場所がなくなると、モルモットがいなくなってしまうし、森がなくなると、ふくろうがいなくなってしまうし、すずしい所がなくなると、アルパカがいなくなってしまうます。

それぞれどうぶつたちにあったかんきょうがあるので、温かい所もさむい所も、森や林も一つでもなくなってしまうとこまります。だから、一つでもなくし

てはいけないなと思いました。



* 中学年部門 *

佳作

海洋生物を助けたい

高岡市立高陵小学校 四年

宮永 みやなが
維睦 いぢか

「おなかが苦しいよ。えさだと思って食べたのにちがったのかな。だれか助けて。」

もし、わたしが保護されたウミガメだったら、きっとこんな気持ちだったろう。

夏休みの前に、わたしは家族と水族館に行った。そ

こで、定置あみに迷い込み、保護されたウミガメの排泄した、プラスチックごみが展示されていた。そのウミガメは、保護されてからもえさを食べず、その後レジぶくろや食品の容器、農業用シートのはへんなどのプラスチックごみを、一か月以上排泄し続けた。

じゅう医さんの治りようによって、元気になり海へ帰れたそうだが、その間どんなに苦しかっただろうと思つた。そして、こんなにたくさんの方々のプラスチックごみが、ウミガメのおなかの中に入っていたのかと思うと、こわくなった。

ウミガメがどうしてこんなことになったのか、本で調べてみた。

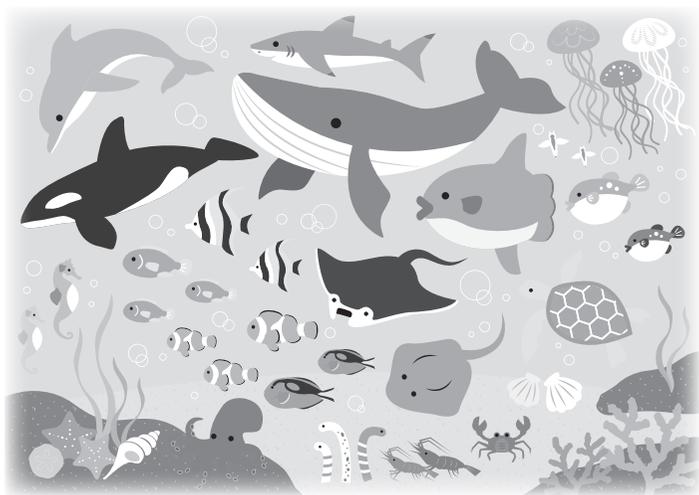
海に流れ出ているプラスチックごみは、海で出たものはずかで、七〇パーセントは陸で出たものが風にふかれたり、川に流されたりして海まで運ばれているものだと知り、おどろいた。また、ウミガメは海中に

うかぶポリ袋などのごみを、えさである海そうやクラゲと、まちがえて食べてしまうことを知った。ウミガメだけでなく、他の海洋生物も、ごみを食べてしまったり、ごみに体をきずつけられたりと、人間が出したプラスチックごみのせいで危険な目にあっていることを知った。

通学の道にも、ごみが落ちているのを見かけることがある。今までは、ごみが落ちているなと思いつつも、通り過ぎてしまうこともあった。しかし、このごみでもし海まで流れていってしまったら、海洋生物を苦しめてしまうかもしれない。

ごみ拾いは、町をきれいにするためだけでなく、海洋生物を守ることもつながることがわかった。これからはあのウミガメを思い出して、ごみはしっかり分別して捨てたり、道に落ちているごみを拾ったりと、自分でできることを見つけて取り組んでいきたい。

人間の出したごみのせいで苦しむ海洋生物が、少しでも減ってほしい。そして、世界中の海洋生物がきれいな海の中で、元気いっぱい気持ち良く、泳ぎ続けてほしい。



* 中学年部門 *

佳作

わたしたちが学んだ食品ロス

富山市立宮野小学校 四年

森田^{もりた} このは

わたしは、一学期に食品ロスの問題について考えました。食品ロスとは、まだ食べることができるのに、食材をすててしまうことです。

給食で出たゴミの写真や食品ロスについての動画を見て、日本でどれぐらい食品ロスが起きているのか気

になり、調べてみることにしました。すると、日本の食品ロスの量は、一年間で約五二三万トンです。ちなみに、世界で起きている食品ロスは、約二五億トンだと分かりました。

わたしは、気になったことを調べる中で、「みんなは、毎日の生活を当たり前だと思って生活している。」と感じるようになりました。世界では、二〇一八年時点で、約八億人の人が食べることができず、苦しんでいます。しかし、わたしたちは、そのことも考えずに生活しているのではないかと考えました。わたしたちがのこした食べ物の一部は、ぶたのえさにしているを知りました。ぶたのえさが、大量にあっても大変です。食品ロス自体をへらすことが、必要だと思いました。

食品ロスは、わたしたちの家庭、スーパーマーケット、学校など様々な場所で起きています。家庭では、二四四万トン、お店や工場では、二七九万トンもの

食品ロスが起きています。この量を知ると、みんなが何も考えずにすてているのではないかと思いました。

さらに、わたしは、かんきょうチャレンジ10^デという富山県の取組に参加しました。かんきょうチャレンジ10とは、地球温だん化をふせぐ取組を十こ決めて、家族みんなで取り組む活動です。その活動をしようかいしてもらうときに、食品ロスの問題が、かんきょう問題にもつながっていることを知りました。食品ロスは、ゴミが出るといことです。ゴミをもやすときには、二酸化炭素が出ます。二酸化炭素は、温室効果ガスとよばれていて、地球温だん化につながるということです。

だから、わたしは、どうやったら食品ロスをへらせるか考えようと思いました。わたしたちの地域だけでも、まず食品ロスをへらせるように、呼びかけるポスターをつくって、はるとよいと思いました。

これから、まずわたしが食品ロスをへらして、呼びかけたと思います。



* 高学年部門 *

最優秀賞

人と環境のために働く

高岡市立野村小学校 五年

おおつら
大浦 深結

私は、一年生から毎年夏休みに、自由研究に取り組んでいきます。今年のテーマは、高分子吸水ポリマーを取り上げました。高分子吸水ポリマーとは、自重の何百倍も水を吸水し、ゲル状になるもので、プラスチックの仲間です。

研究の中で、ポリマーが水を長く保つことができる性質を生かして、土に混ぜて、植物を育ててみる実験をしました。すると、水やりをしなくても、長く花を咲かせることができました。植物を育てるときにも、利用できるなんてすごいなと驚きました。でも、プラスチックは、土にまいてしまうと自然に返らず、土の中に長く残ってしまうことになります。便利だけれど、環境には悪いなと思いました。

そのとき、母に、
「プラスチックではなく、自然の原料から、ポリマーを作っている会社が沖縄にあるから、家族旅行を利用して行ってこよう。」

と言われ、行くことにしました。

私たちが行ったのは、株式会社EFポリマーという二〇二〇年にできた会社でした。インタビューでは、EFポリマーとは、農業用に開発した、自然に分解さ

れるポリマーだということ、EFとはエコフレンドリーの略だということ、原料は、インドのジュース工場で出るごみの果物の皮だということなど、様々なことを教わりました。

その中で、私が、一番心に残って皆に知ってほしいと思ったことがあります。それは、社長のナラヤンさんのことです。ナラヤンさんは、インドの干ばつがひどい農村で育った人です。作物もすぐに枯れてしまいい、干ばつに強い作物でさえ枯れてしまうところだったそうです。ナラヤンさんは高校生のときから、この地域での農業を良くしたいと、ポリマーに目をつけました。さらに、環境のことも考え、果物の皮のごみから自然に分解されるポリマーを作り、商品にしました。私は、これがとても素晴らしいアイデアだと思い、感動しました。

今、世界では、大量に出るごみが問題になっていて、

ごみを減らすためにリサイクルが進められています。でも、私は、リサイクルが本当に環境にいいのだろうかと思うことがあります。例えば、ペットボトルは、ずっとリサイクルし続けることはできなくて、いつかは燃やしたり、うめ立てたりしなければいけないごみになります。でも、EFポリマーは、ごみとして捨てられる物を原料にして、使用後は土に返っていきます。まさに持続可能な発明だと感じました。

今、ニュースでは、ごみ問題以外にも、地球温暖化のように、未来が心配になる問題がたくさんあります。でも、ナラヤンさんのような人や会社を知り、心が明るくなりました。もっとこんな人や会社が増えて、明るい未来に向かって働ける社会になってほしいです。私も人と環境のために役に立てる人になりたいです。

* 高学年部門 *

優秀賞

立山植物保護への活動

富山市立新保小学校 六年

岩河^{いわかわ} やくくら

立山には、チングルマやタテヤマリンドウなど、高山にしか自生しない植物がたくさんあります。立山では、その植物を守るために、いろいろな活動や工夫がされています。

例えば、立山外来植物除去の活動です。外来植物と

は、人間によって持ち込まれた外国の植物や立山の地域外から持ち込まれた植物を指します。外来植物を除去する理由は、外来植物が持ち込まれて、繁殖・拡散することによって、本来の植物の生息地が奪われるなどして、生態系が破壊される危険性があるからです。もし、立山植物が失われると、その植物はもう見られなくなってしまうかもしれないのです。

外来植物が繁殖・拡散することを防ぐために、立山自然保護センターでは、三つの観点から対策をとっているそうです。一つ目は、外来種が生育する土地の管理方法の改善です。二つ目は、外来植物種子の侵入の阻止です。車両に付着した種子をタイヤ洗浄装置で洗い流したり、靴底に付着した種子を除去マットで除去したりします。三つ目は、定着してしまった外来植物は徹底的に除去することです。

この他にも、わたしたちには、すぐに取り組めるこ

ともあります。例えば、決められた道を歩き、植物を採ったり、踏んだりしないことです。他にも、ゴミを落とさず持ち帰る、ペットを連れての入山をしない、山でのトイレは決まったところにするなど、植物を守るための利用マナーがたくさんあることも、立山黒部アルペンルートのホームページを見てわかりました。

そんな利用マナーがたくさんある立山ですが、いろいろな方が、立山の自然を感じに観光へ来られます。例えば、外国人の観光客です。外国人は、日本語を読める方が少なく、日本語のサイトなどだと、伝わらないことが多いです。だから、立山黒部アルペンルートには、英語のホームページがあります。英語のホームページがあると、外国人の方でも読むことができます。そのためか、外国人の方も、決められた道を歩いたり、ゴミが落ちてないかを確認したり、「Heeーoー!!」や「コンニチハ!!」と挨拶を交わしたりしてい

る姿が見られて、とても素敵だと思いました。

立山に来る人が植物を守るために、いろいろな活動をしていることを知って、私も立山へ行ったときは、決められた道を歩いたり、ゴミが落ちてないか確認したりして、立山植物を守るために協力しようと思いました。また、立山へ行ったときに、外国人やお年寄りの方、サッカー選手、小さな子供が立山の自然を楽しんでいる姿を見たので、いつまでもみんなが立山の自然を楽しめるように、利用マナーを守らないといけないと思いました。

* 高学年部門 *

優秀賞

地球温暖化を防ぐために

南砺市立利賀学舎 五年

仲井 なかい
宗介 そうすけ

「昔は、こんなに暑くなかったのになあ。」

ぼくが、山村留学をしている利賀村のホームステイ
先で聞いた言葉です。

ぼくは、滋賀県から南砺市利賀村に山村留学をして
います。利賀村は、滋賀県に比べると、とても涼しく

て過ごしやすい場所だなと思っていました。滋賀県で
暮らしているときは、夏の夜でもエアコンがないと絶
対に寝られないほどの暑さなのに、山村留学センター
では、エアコンがなくても窓を開けておけば、快適に
過ごすことができます。

でも、利賀村の人たちの話を聞いてみると、最近
利賀村でも、夏の昼間に気温が三五度を超える日があ
るそうです。山村留学センターにも、そろそろエアコ
ンが必要かなという声も聞こえてきます。ぼくは、「こ
れがテレビでよく聞く地球温暖化というやつか。」と
思い、地球温暖化について調べてみることにしました。

地球は、太陽の熱で温められています。余分な熱
は、宇宙に出ていきます。地球は、温室効果ガスに包
まれていて、熱の一部が吸収されます。その温室効果
ガスの層が厚くなりすぎていて、宇宙に出るはずだっ
た熱が地球にこもってしまい、地球の平均気温が上

がっているそうです。この温室効果ガスの層が厚くなった原因は、二酸化炭素の排出量が増えたことです。つまり、二酸化炭素の排出量を減らせば、地球温暖化を防ぐことができます。しかし、ぼく一人で、地球規模の二酸化炭素の排出量を減らすことはできません。そこで、僕にできることは何だろうかと考えました。

二酸化炭素は、石油などの燃料を燃やすと発生します。できるだけ燃料を使わないようにすれば、二酸化炭素の排出量を減らすことができます。そのために、部屋の照明やテレビの電源をつけっぱなしにせずこまめに消すこと、エアコンの温度を夏は高く、冬は低くし、服装で調整する。近場に行くときは、自動車を使わず、自転車を使ったり、徒歩で移動したりすることができます。小さなことですが、これなら、子供のぼくたちにもできます。たくさんの人で取り組めば、大

きな力になると思います。一人一人が、地球温暖化を防ごうという気持ちで、できることから始めていくことが大事だと思います。そして、みんなで、真剣に話し合い、同じ気持ちで取り組めば、地球温暖化を防ぐことができるはずです。

大好きな利賀村が、いつまでも過ごしやすい場所であるように、ぼくのできることから頑張って取り組みもしたいと思います。



* 高学年部門 *

佳作

水の成分と地域

富山市立新保小学校 五年

岡崎 おかざき 百々花 ももか

私は、水と人間の暮らしの関わりについて調べるために、わかっていることやわからないことを、マインドマップで整理してみました。

そして、水道水というキーワードが気になり、水道水の水質について調べていたのですが、そもそも、「水

質」ってなんだろうと疑問を持つようになりました。辞書で調べると、「水の成分」とありました。つまり、水はいろんなものがまじりあってできているということを知って、身近な飲み水の一つである、ミネラルウォーターについて調べてみました。

まず、国産のミネラルウォーターについて調べました。調べた種類は、いろはす、富士山の天然水、SUNTORY天然水です。調べてみると、ミネラルウォーターの種類によって成分に違いがあって、びっくりしました。なぜかという、ミネラルウォーターに違いがあると思わず、これまで特に気にしたことがなかったからです。

この3つをグラフにしてみると、ほとんどの水がカルシウムが一番多く、カリウムが一番少ない傾向であることが分かりました。ですが、いろはすは、カルシウムよりもナトリウムが多いという特徴が分かりまし

た。

そこで私は、カルシウムやナトリウムなどの、ミネラルウォーターに記載されている成分は、人体にどんな影響を与えているのか気になり、早速、調べてみました。

調べてみると、カルシウムは出血を予防、筋肉の興奮を抑える働きがありました。カリウムは、血圧を下げる効果や水分を保持するのに、重要な役割を果たしていることが分かりました。このような良い影響もあるものの、逆に、過剰に摂取すると、高血圧、便秘、不整脈などの健康障害が発生する可能性や、がんの原因や骨の強度が低下してしまう原因にもなることが分かりました。もともとあまり良くない影響が出そうだなと思っていたけれど、過剰摂取をしてしまうと、ここまでの影響が出ることにとても驚きました。

次に、外国産のエビアンと国産のものをグラフにし

て見てみると、ナトリウムやカリウムは、国産のものとはほとんど同じ傾向でしたが、カルシウムがおおよそ八倍という特徴があることが分かりました。ここまで違うと、何が理由なのか気になり、調べてみると、「地域によって、地下の岩盤などで構成される地質の種類や重なり方も様々なため、採水される場所ごとに、ミネラルウォーターに含まれるミネラルの成分や量に違いがあらわれます。」とのことでした。理由が分かったとき、なるほどと、とても納得しました。

この二つの調査を通して、暮らしには水が深く関わっていることに改めて気付かされました。

今回、水質について触れてみて、知らない言葉やなんとなくで理解している言葉にも向き合うきっかけになったと思います。

* 高学年部門 *

佳作

3Rの徹底でゴミゼロ作戦

南砺市立利賀学舎 五年

仲井 なかい
文音 あやね

朝起きると、お父さんが大きなゴミ袋を二つ両手に持って、玄関から出かけて行った。なんだか重たそうだなあと思った。

ごみの収集日は、一週間に二回ある。一週間もしないうちに、もうこんなにゴミがたまったのかとおどろ

いた。そこで、みんなが出しているゴミは、どれくらいあるのだろうかと思って、調べてみることにした。

二〇二〇年の日本のゴミの排出量は、四一六七万トンで、一日あたりの一人分のゴミ排出量は、九〇一グラムだそう。一人で、一日に、一キロ近いゴミを出しているのかと、おどろいた。しかも、日本のゴミの排出量は、世界第四位だ。世界のゴミの排出量は二〇五〇年には二〇一〇年の二倍以上の約二二三億トンにもなると言われているから、さらにおどろきだ。

日本では、ゴミのうち約半分は、もう一度資源として再利用されたり、自然に還されたりしているけれど、残りは燃やすなどの処理をした後で、埋め立て処分をしている。でも、このままでは私たちが大人になるころには、埋め立てるための処分場がいっぱいになってしまって、ゴミを埋めるところがなくなってしまうとも言われている。そうになってしまうと、私た

ちは、ごみの中で生活しなければならぬという未来が待っている。そのような未来にならないように、まずは、自分ができることを行っていこうと考えた。

ごみを減らすために私ができることは、学校で習った3Rの徹底だ。3Rとは、リデュース（ごみの量を減らす）、リユース（ものを繰り返し使う）、リサイクル（使い終わったものを資源として再利用する）のことである。

リデュースでは、料理を作りすぎない、レジ袋はもらわずマイバッグを使用する。詰め替えできる商品を買うなどのことができそうだ。リユースでは、壊れたものをすぐに捨てず、修理してもう一度使う、小さくなった服やいらなくなったものを必要な人にあげる、割りばしを洗って何度も使うなどができそうだ。リサイクルでは、古新聞は資源回収に出す、ペットボトルや食品トレー等をリサイクルボックスに入れる、リサ

イクルされた商品を買うなどができそうである。私だけがこれらすることに気を付けるのではなく、家族や友達にも取り組んでもらえるように呼びかけていきたい。

日本には、「もったいない」という言葉がある。この言葉は、3Rの活動を一言で表せるすばらしい言葉だと思う。「もったいない」を合言葉に、将来私たちが、ごみの中で生活しなくてもいいように、3Rの徹底を心がけて生活していきたい。



◆募集要項

★応募対象

富山県内の小学生

★作文のテーマ

- ① イタイイタイ病について知ったこと、調べたこと
 - ② 清流を守る活動と人々
 - ③ 水と人間の暮らしの関わり
 - ④ 住んでいる地域の環境、自然について
 - ⑤ 生き物とのふれあい体験
 - ⑥ 山や川・海とのふれあい体験
 - ⑦ 水や食の安全について
 - ⑧ 学校・学級で取り組んでいる環境問題
 - ⑨ 個人・地域で取り組んでいる環境問題
- ※ これ以外のテーマでも本コンクールの趣旨に沿うものであれば可とします。
(例えば、海洋汚染・地球温暖化・大気汚染・自然災害・健康被害など。)

★応募のきまり

- ① 応募作品の字数は以下のとおりです。

小学校1・2年生	4000字詰原稿用紙	8500字以内
小学校3・4年生	4000字詰原稿用紙	10000字以内
小学校5・6年生	4000字詰原稿用紙	12000字以内
- ② 一人1作品とします。
- ③ 原稿は縦書きとし、1行目にタイトル、2、3行目に学

校名、学年、氏名(ふりがな)を明記し、本文は4行目から書き始め、袋とじにしないで右肩をホッチキスでとめてください。

- ④ 応募作品は他のコンクール等へ応募していない未発表のものに限ります。
- ⑤ 応募者の情報及び応募作品を主催者において自由に発表することについては承諾していただきます。
- ⑥ 応募作品は、郵送でお願いします。個人でも応募できます。学校・学級でまとめて応募する場合は、応募者名の一覧(学年、題名記載)と担任または担当者のお名前を書いたものを同封してください。
- ⑦ 応募作品の返却は原則行いません。

★応募期間

応募期間は2024年7月1日～2024年10月20日とします

★賞の種類

(応募する賞を明記する必要はありません。審査委員会で適切に判断します。)

- A) 清流環境歴史賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- B) 清流環境体験賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- C) 清流環境科学賞 最優秀賞、優秀賞、佳作
- D) 清流環境奨励賞(がんばって応募していただいた学校・学級)

- ① 学校賞（各学年で在籍の7割以上が応募）
- ② 学級賞（在籍児童の7割以上が応募）

★表彰

- ① 小学校1・2年生の部（低学年）、3・4年生の部（中学年）、5・6年生の部（高学年）の歴史賞、体験賞、科学賞毎に、最優秀賞、優秀賞、佳作を选考します。
- ② 最優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞（図書カード5千円分）を贈ります。
- ③ 優秀賞受賞者には表彰状と盾、副賞（図書カード3千円分）を贈ります。
- ④ 佳作受賞者には表彰状と副賞（図書カード1千円分）を贈ります。
- ⑤ 清流環境奨励賞を受賞の学校には表彰状と盾、副賞（図書カード1万円分）、学級には表彰状と副賞（図書カード3千円分）を贈ります。
- ⑥ 清流環境奨励賞を受賞した学校・学級へイタイイタイ病に關係した方々（語り部等）を派遣して公害・環境教育のお役に立ちたいと思います。
- ⑦ 応募者全員に参加賞を贈ります。

★その他

- ① 作品は清流環境作文コンクール審査委員会で選考いたします。
- ② 選考結果は2025年1月上旬に発表する予定です。表彰式は2025年2月を予定しています。
- ③ 個人情報の取扱い

応募の際に提供いただく個人情報、以下に掲げる事項に必要な範囲で使用します。

- ・本コンクールの運営（外部審査員への提供を含む。）
- ・受賞作品の発表

- ・当財団が行う事業全般についての連絡
- ④ 応募者は、応募いただいた作文が受賞した場合に、当財団が主催、共催若しくは後援する事業、当財団のホームページ及び当財団が適当と考える場所（富山県立イタイイタイ病資料館、他地域の公害資料館等）において、当該応募者の氏名・所属・受賞作文・受賞した賞の種類を公表すること、及び当該受賞作文を他で公表する場合には、「一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会の表彰を受けた」旨付記し、当該応募作文が掲載された出版物、ホームページ写し等を当財団宛に提出をいただくことについて、応募をもってご承諾をいただくこととします。
 - ⑤ 受賞作品はホームページからダウンロードできます。
 - ⑥ 本コンクールの運営の内容、応募者の属性及び応募いただいた作文（氏名、所属等特定の応募者を識別することができる情報は含みません）について、大学、その他、当財団が適当と認めた機関における研究及び教育に使用されることがあります。研究・教育利用規約については、下記までお問い合わせください。
 - ⑦ 本要項の記載内容はやむを得ず変更をする場合があります。変更をした場合は、当財団のホームページその他の場所において速やかに発表いたします。
 - ⑧ 入賞作品は、文集掲載時に全体のバランスを考え、表記や表現を一部改める場合があります。

2024 年度
第 7 回 清流環境作文コンクール
受賞作品集

発行：一般財団法人神通川流域カドミウム被害団体連絡協議会
イタイイタイ病対策協議会

清流会館 〒939-2723 富山市婦中町萩島 684
TEL 076-465-4811 FAX 076-465-4814

印刷：株式会社なかたに印刷

〒939-2741 富山市婦中町中名 1554-23
TEL 076-465-2341 (代) FAX 076-465-2340

発行日：2025 年 2 月 20 日

